

河内町埋蔵文化財調査報告書第2集

立伏E遺跡

1998年3月

河内町教育委員会

立 伏 E 遺 跡

— 田原西小学校建設に伴う発掘調査 —

1 9 9 8 年 3 月

河 内 町 教 育 委 員 会

序

栃木県の中央部に位置する河内町は、県都宇都宮市に隣接し、西部が丘陵地で中央部から東部にかけて平坦地になっています。

近年、宇都宮市のベッドタウンとして開発が進み、大規模な宅地造成により人口が急増しております。

この調査は、西部地区の田原小学校の分離校として建設され、平成7年4月に開校した田原西小学校の敷地内に立伏E遺跡の一部が所在したことに起因しております。

今回の調査では、古代から中世にかけての遺物が多数確認されるなど、この地域におけるその時代の生活を解明する上で貴重な成果を得ることができました。

本書はこの発掘調査の成果をまとめたものです。この報告書が町民の皆様並びに関係各方面において十分ご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査において調査、整理にご尽力いただきました水品信男氏をはじめ、ご指導いただきました栃木県教育委員会及びご協力を賜りました関係各位に対しまして深く感謝申し上げます。

平成10年3月

河内町教育委員会

教育長 五月女 勝 正

例 言

- 1 本書は栃木県河内郡河内町立伏に所在する立伏E遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成4年11月14日から12月2日まで確認調査を、平成4年12月19日から平成5年4月3日まで本調査を行った。
- 3 調査は河内町教育委員会が主体となり、水品が担当者となった。
- 4 本書の執筆、図面作成、実測等は水品が行った。
- 5 本発掘に関わる資料は河内町教育委員会社会教育課で保管している。
- 6 発掘調査の実施及び本書の作成にあたって下記の方々のご協力を賜った。記して謝意を表する。
加来孝代 小森哲也 今平利幸 戸田正勝 初山孝行 梁木誠 栃木県教育委員会文化課
- 7 挿図の縮尺はかまど、炉、土坑、井戸が1/60、溝が1/100、出土遺物はすべて1/3である。
- 8 断面図基準線は標高であり、平面図の方位は磁北を示す。
- 9 土器観察表の法量は、上から口径、底径、器高を表し、単位はcmである。かっこ内は推定値を表す。
- 10 遺物番号は本文、挿図、表、図版と一致する。
- 11 遺構、遺物の写真の縮尺は不統一である。撮影は水品が行った。

調 査 組 織

主体者 河内町教育委員会

事務局 〈発掘調査時〉

〈報告書作成時〉

教育長 和田 實

教育長 五月女 勝正

社会教育課長 田中 伸明

社会教育課長 田中 伸明

// 補佐 石川 明

// 補佐 齋藤 清美

社会教育係長 菊地 誠治

// 文化振興係長 齋藤 幸夫

// 主任 高橋 英之

// 文化振興係 石井 良枝

発掘調査担当者 水品 信男 (河内町立岡本小学校教諭)

調査補助員 河内町文化財保護審議会委員

加藤 幸雄 杉本 武義 藤井 伸一 舟越 英治

作業員 藍原 裕史 石川 馨 石川 源重 石川 直子 石川 洋子 大竹 勝実

大竹 ヨシ 大森 イツ 大類 チヨ 大類 フデ 大類 又一郎

加藤 かほる 加藤 吉三 加藤 ヨシ 菊地 幸枝 黒崎 一郎 黒崎 克子

黒崎 春江 黒崎 浩史 黒崎 真理子 齊藤 寛司 齋藤 斐子 鈴木 モト

五月女 伸介 高塩 芳子 高橋 せつ 高橋 敏雄 佃 スイ 綱川 トシ

手塚 光 福田 孝子 本多 カツ子 宗像 ウメ 宗像 正人 森田 トシ

若山 重明

社会教育課職員 小沢 源一 押野 雅之 齋藤 幸夫 鈴木 茂 須藤 一彦

宗像 茂

目 次

序

例 言

第1章	調査の概略	1
第1節	調査の経緯	1
第2節	調査の方法と経過	1
第2章	遺跡の環境	4
第1節	地理的環境	4
第2節	歴史的環境	4
第3章	遺構と遺物	13
第1節	遺構と遺物	13
1	かまど	13
2	炉	16
3	土坑	19
4	井戸	27
5	溝	30
第2節	その他の遺物	34
1	土器	34
2	石製品	34
3	その他	34
第4章	まとめ	43

挿 図 目 次

第1図	遺跡の地形と調査区	2	第13図	土坑実測図(3)	24
第2図	予備調査グリッド配置図	3	第14図	土坑実測図(4)	25
第3図	叶谷A遺跡出土土器	4	第15図	土坑出土遺物	26
第4図	周辺の遺跡	5	第16図	井戸実測図	28
第5図	遺構位置図(1)	9~10	第17図	井戸出土遺物(1)	28
第6図	遺構位置図(2)	11~12	第18図	井戸出土遺物(2)	29
第7図	かまど実測図	14	第19図	溝1実測図	30
第8図	かまど出土遺物	15	第20図	溝2実測図	31
第9図	炉実測図	17	第21図	溝3実測図	32
第10図	炉出土遺物	18	第22図	溝出土遺物	33
第11図	土坑実測図(1)	21	第23図	西地区表土出土遺物(1)	35
第12図	土坑実測図(2)	23	第24図	西地区表土出土遺物(2)	36

第25図 東地区表土出土遺物(1) …… 39

第26図 東地区表土出土遺物(2) …… 40

表 目 次

第1表	周辺の遺跡	…	7
第2表	かまど出土土器観察表	…	16
第3表	炉出土土器観察表	…	18
第4表	土坑出土土器観察表	…	26
第5表	井戸出土土器観察表	…	28

第6表	溝出土土器観察表	…	33
第7表	西地区表土出土土器観察表(1)	…	37
第8表	西地区表土出土土器観察表(2)	…	38
第9表	東地区表土出土土器観察表(1)	…	41
第10表	東地区表土出土土器観察表(2)	…	42

図 版 目 次

図版 一	遺跡遠景・発掘前状況
図版 二	予備調査
図版 三	南地区
図版 四	西地区
図版 五	かまど(1)
図版 六	かまど(2)・炉
図版 七	土坑(1)
図版 八	土坑(2)

図版 九	土坑(3)
図版 十	井戸
図版 十一	溝1
図版 十二	溝3
図版 十三	土器(1)
図版 十四	土器(2)
図版 十五	土器(3)
図版 十六	土器(4)

第1章 調査の概略

第1節 調査の経緯

河内町は栃木県の県庁所在地である宇都宮市の北東に隣接し、そのベッドタウンとして大規模な宅地開発が行われ、近年人口が急増している。そのため町西部に位置する田原小学校では児童数が増加し、分離校を設置する必要に迫られていた。そこで町では平成6年度に開校するべく計画を立て平成4年8月に河内町立伏地内に学校建設予定地を選定した。その予定地に周知の遺跡である立伏E遺跡の一部がかかっていたため県教委と相談し事前調査を実施する必要があることが明らかになった。9月25日に河内町教育委員会より河内町立岡本小学校に勤務している水品に調査を担当してほしいとの連絡があった。平成5年1月に用地造成に入りたいとの話であった。県教委の担当者である初山孝行氏とも協議の上、発掘方法について考えることになった。

平成4年9月29日に町教委担当者及び初山氏とともに現地調査をする。予定地の中央を東西に道路が通っており、谷に南面した微高地に土師器と思われる土器の小片が散布していた。北側は丘陵でゴルフ場になっている。現況は道路北側の東部が草地で東端は削平され資材置き場のようにになっている。西部は樹木の育成地である。道路南側は東部が水田、西部が畑である。畑の東部分は一部削平され資材置き場のようになっている。以後便宜上、草地部分を東地区、樹木部分を西地区、畑部分を南地区と呼称する。遺物の散布量は少なく、水田部分と削平部分を除き確認調査を実施し、その後本調査を実施するかどうか考えることにした。

第2節 調査の方法と経過

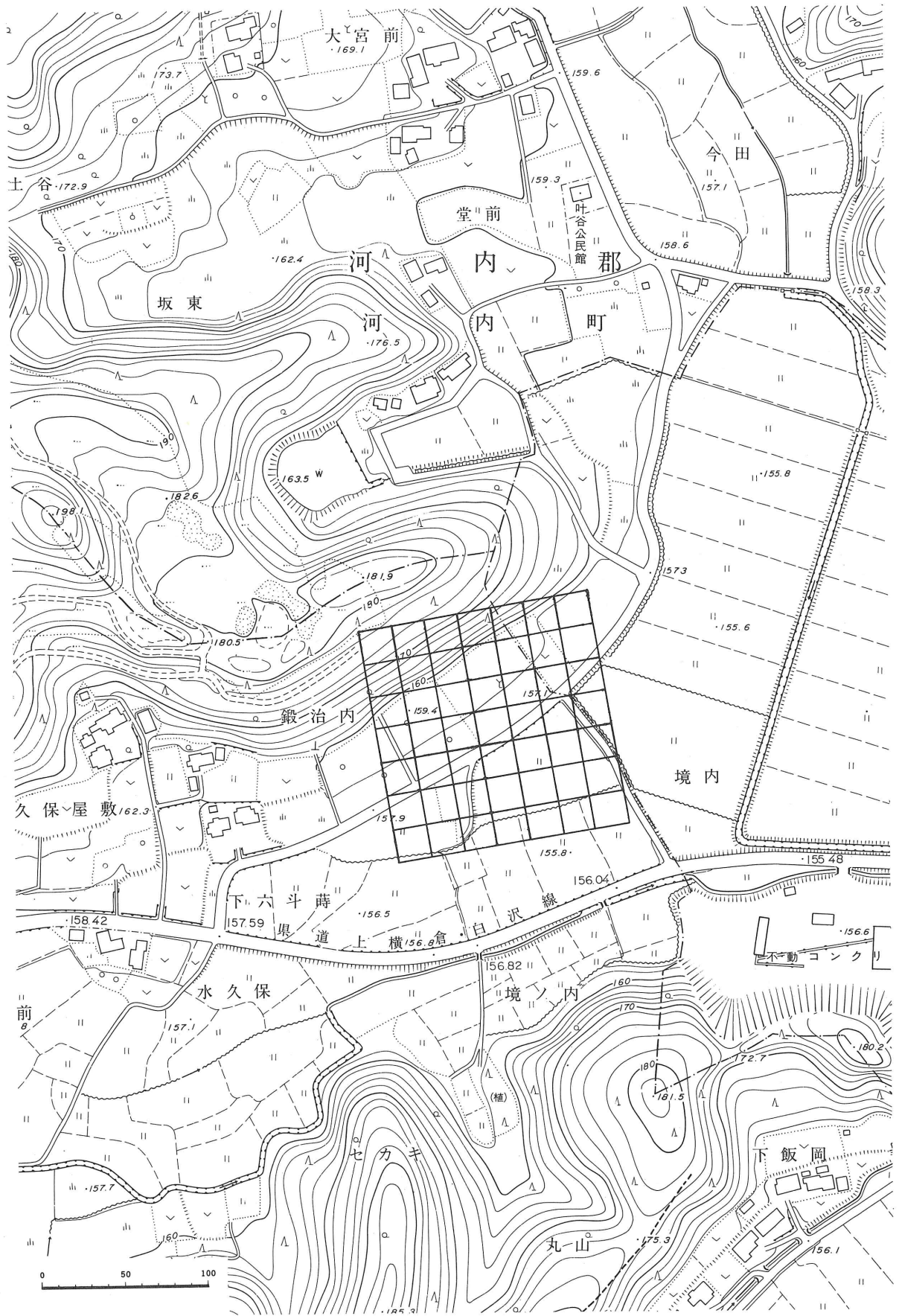
11月14日確認調査開始。遺跡内の任意の点を基準に磁北線を使って基準杭を20m間隔に設定した。基準杭は南北をアルファベット、東西を数字で表すことにした。基準杭によって設定された一辺20mの大グリッドを南西隅の基準杭の名称で表すことにした。さらにそのグリッドを一辺4メートルの小グリッドに25区分した。大グリッドごとに南西隅と中央の2つの小グリッドの表土を取り除き、遺構、遺物の確認をすることにした。なお、磁北線については、後日東に4度ずれていることが判明したが、発掘開始後だったため、そのまま進めることにした。

東地区は南に行くほどローム面までが深く、北側の丘陵近くは約0.2m、南の道路近くは約0.8mである。黒色土中に粘土らしきものを3か所検出した。遺物は土師器、陶器がわずかに見られた。西地区は、当初樹木がありグリッドを設定できなかった。後日樹木の一部を移動してもらい、調査を進めた。全体的に黒色土が厚く堆積し、ローム面まで約1mである。溝、土坑らしき遺構があり、土師器と見られる遺物が多数出土した。南地区はローム面まで約0.6m、土坑、柱穴らしきものを多数確認した。

11月28日南地区東の削平されていた部分に重機を入れ表土を取り除く。溝、土坑、柱穴が確認できた。東地区の削平部分については借地権の問題があり調査を実施することができなかった。

12月2日確認調査終了。遺構、遺物の状況から東地区は遺構を確認した2グリッドを拡張して調査し、西地区、南地区は、全面的に重機でローム面まで掘り下げ、調査することにした。

12月19日本調査開始。南地区、ローム面で遺構確認。溝が東はじの水田面との境にある。土坑、柱穴及び井戸を多数確認する。溝と南側の土坑については地下水の水位が高く、底部まで調査することができない。西地区は樹木が移動されていないので、全面的な調査ができない。南東部分に幅5m、長さ24mのトレンチを

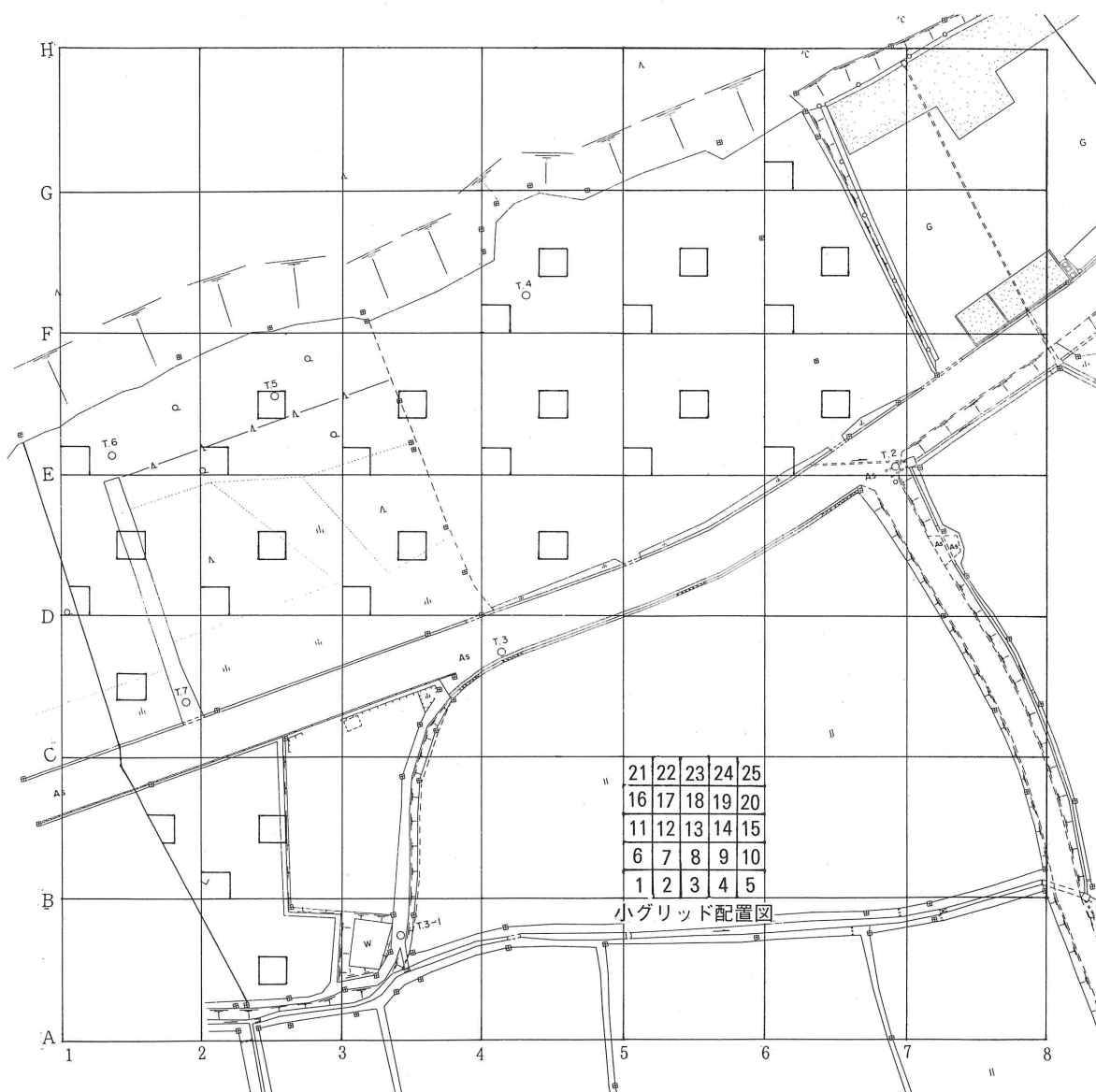


第1図 遺跡の地形と調査区

6本重機で掘り、調査を進める。南の道路沿いは地下水の水位が高く、調査ができない。黒色土中に炉址と考えられる焼土、灰が確認される。周囲に遺構が確認できなかったので炉址と考えられる部分を残し、ローム面まで掘り下げる。溝が2本検出されたが、水がでてきたため、底部まで調査することができなかった。溝の周囲の土坑についても同様である。調査区全体に霜柱が立ち、遺構が崩れていく。東地区は遺構が確認された2グリッドを拡張し調査する。かまどを3基発掘したが、住居址は確認できなかった。正月をはさんで1月10日まで調査をする。その後、土曜日、日曜日に調査を続ける。黒色土中の炉址と考えられる遺構については断面図を取り、調査する。

3月20日。西地区の樹木移動完了。重機で表土を取り除く。道路部分が障害となり、土をおく場所がなく、難航する。3月26日、ローム面で遺構を確認する。すでに確認していた溝のほか、土坑、柱穴が多数確認された。各遺構の調査を進める。東地区では造成工事が始まる。

4月3日。西地区東部の造成工事中に発見された石組みかまどを実測し、調査を終了する。



第2図 予備調査グリッド配置図

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

河内町は栃木県のほぼ中央、関東平野の北端、県中央部を南流する鬼怒川の右岸に位置する。県庁所在地である宇都宮市の北東に隣接している。地形的には、大きく分けると東から鬼怒川の沖積地、岡本台地、田原台地、宇都宮丘陵に区分される。田原台地と宇都宮丘陵は南流する山田川と御用川及びその支流により浸食され、低地面、谷地形が認められる。

本遺跡は、山田川の支流が宇都宮丘陵を開析した谷に南面する丘陵裾部の緩傾斜地に立地する。標高は15m前後であり、水田面からの比高は1~4mである。遺物の分布状況を見ると、丘陵裾部に沿って東西に広がっており、調査地区はその一部と考えられる。

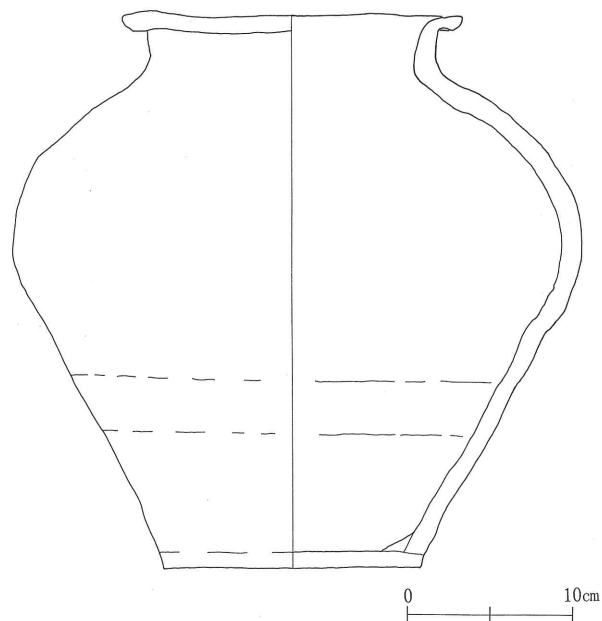
第2節 歴史的環境

河内町の遺跡は現在までに61か所が確認されている。その分布は大きく二つに分かれ、岡本台地の鬼怒川に面する段丘縁と宇都宮丘陵に集中している。しかし、宅地、学校、ゴルフ場の造成等で消滅した遺跡も多く、実数はさらに多いと考えられる。時期的には、旧石器時代2、縄文時代18、古墳5、中世城館址5、古墳時代から平安時代の土器散布地32、中世4、近世2である。これは分布調査をもとにしているものが多く、調査中の遺跡も含まれており確定的な数ではない。平成元年に調査された日枝神社南古墳は近世の経塚であることが明らかになっており、ほかでも古墳とされていたものが経塚等になる可能性がある。土器散布地の中でも土師器として処理されているが、中世から近世の遺跡も含まれていると考えられる。

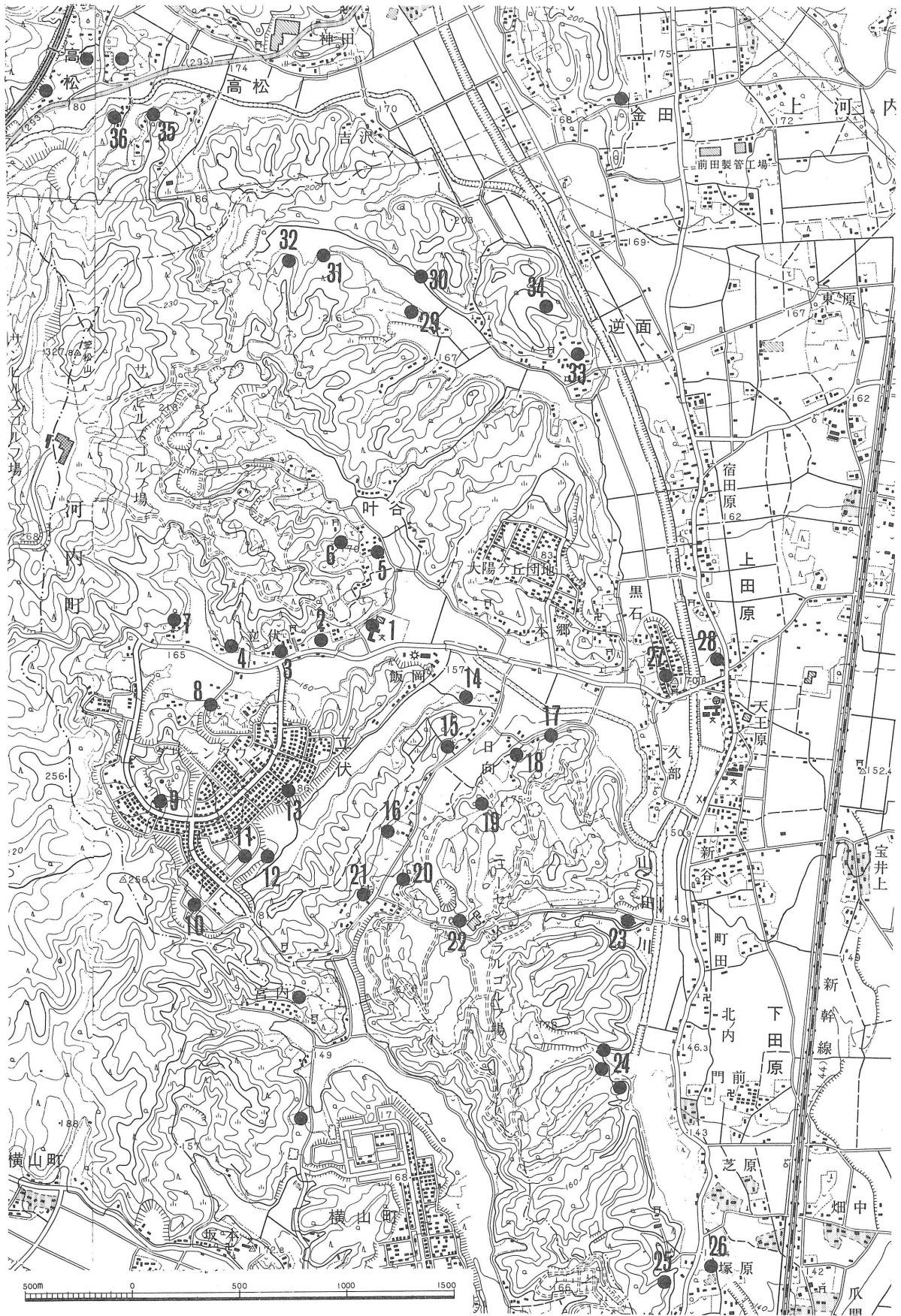
本遺跡がある宇都宮丘陵には、旧石器時代から近世の多くの遺跡がある。全体的に見ると、丘陵頂部に縄文時代早期の遺跡が、丘陵先端部平坦面から緩傾斜地に縄文時代中期の遺跡がある。そして、それより低い位置に古代から中世の集落が立地している。

本遺跡の西側には土師器の散布地とされている立伏B、C、Dの三遺跡があるが、土器の散布状況から本遺跡と一体の集落遺跡として把握できる。

叶谷A遺跡は本遺跡の北500mに位置し縄文中期の土器が散布しているが、近年、常滑焼の広口壺が耕作中に発見されている。出土地は小谷に南面する傾斜地で、壺口部に径20cmの扁平な河原石があり、土器を囲むようにして径10cmほどの扁平な河原石が40個ほどあったらしい。壺内部には遺物は認められなかった。状況からすると、骨壺として利用されたと考えられる。口径20.8cm、底径15.7cm、高さ34cm、胴部中央やや上よりに最大径があり、34.8cmである。頸部はやや外傾気味に直立し、口縁部は頸部から直線的に折れ曲がるように横に広がっている。口縁部内外面、胴部上半、内部下半に釉がかかっている。胎土には微砂粒が混入し色調は茶褐色である。12世紀後半のものと考えられる。



第3図 叶谷A遺跡出土土器



第4図 周辺の遺跡

逆面城は北東1.5kmの山田川右岸の丘陵突端部に築造された山城で、土塁と堀に囲まれた三つの郭がほぼ東西に連なっている。南側の山麓に逆面館がある。築城時期は不詳であるが、室町初期の康暦2年（1380年）裳原合戦の宇都宮基綱軍の中に逆面阿波守の名がある。このことから宇都宮氏の支城として室町時代には築城されていたであろう。時代的には本遺跡との関係が考えられる。

宇都宮丘陵は住宅地やゴルフ場としては早くから開発されてきた。そのために消滅した遺跡も多い。現在、下田原地内に住宅開発計画があり、予定地内の遺跡（大志白遺跡群）の発掘調査が進められている。旧石器時代から縄文時代早期・前期・中期、古代～近世に亘る遺跡が確認されている。そのうちの大志白遺跡からは墓坑と考えられる中・近世の土坑27基が検出されている。

河内町西部の宇都宮丘陵は開発の波にさらされているが、これからの遺跡保護と詳細な調査により旧石器時代から近世に至る河内町の歴史、特に今まで考古学的にはよくわかっていなかった中世の様相が明らかになるであろう。

参考文献

栃木県史編纂委員会	「栃木県史」資料編・考古一	1976年
河内町教育委員会	「河内町誌」	1982年
栃木県教育委員会	「栃木県の中世城館跡」	1982年
石川 均	「日枝神社南遺跡・日枝神社南古墳発掘調査報告書」	1997年
戸田 正勝他	「大志白遺跡群発掘調査概報Ⅰ」	1997年
栃木県教育委員会	「栃木県遺跡地図」	1975年

第1表 周辺の遺跡

番号	遺跡名	種別	概要	備考
1	立伏E	集落址	古代、中世集落	本報告書、学校造成消滅
2	立伏D	散布地	土師	
3	立伏C	//	土師	
4	立伏B	//	土師	
5	叶谷B	//	土師	
6	叶谷A	//	縄文（加曾利E、阿玉台）、中世	
7	立伏A	//	縄文（黒浜）、土師	
8	台	//	土師	
9	小石	//	土師	宅地造成消滅
10	カケストヤA	//	縄文（加曾利E）、土師	//
11	カケストヤB	//	土師	//
12	梅ヶ沢B	//	土師	//
13	梅ヶ沢A	//	土師	//
14	西組	//	縄文（阿玉台）、土師	
15	飯岡	//	土師	
16	一侍C	//	土師	
17	日向B	//	土師	
18	柴山	//	土師	消滅
19	日向古墳群	古墳	円墳2	
20	一侍B	散布地	土師	
21	一侍A	//	縄文、土師	
22	姥ヶ入B	//	縄文（茅山）	ゴルフ場造成消滅
23	姥ヶ入A	//	土師	
24	大志白遺跡群	集落等	旧石器、縄文、古代～近世	平成8～9年発掘調査
25	高山古墳	古墳	封土なく横穴式石室のみ	
26	塚原古墳群	//	小型前方後円墳、円墳	
27	井頭	散布地	縄文（加曾利E）	宅地造成消滅
28	河内医院東	//	縄文	消滅
29	中島	//	縄文、土師	
30	沖ノ前	//	土師	消滅
31	高山B	//	縄文（中期）、土師	
32	高山A	//	縄文、土師	
33	逆面館	館跡	中世	
34	逆面城	城跡	中世	町指定史跡
35		散布地	縄文（後期）、土師	上河内町
36		//	縄文、土師	上河内町



6 第5図 遺構位置図(1)



第6図 遺構位置図(2)

第3章 遺構と遺物

検出された遺構はかまど5基、炉9基、土坑37基、井戸9基、溝3本、柱穴多数である。かまどは東地区で粘土で作られたものが3基、西地区北東部で石組みのものが2基検出された。かまどの周囲を調査したが住居址は確認できなかった。炉は西地区の東部、溝3の周辺にまとまっていた。黒色土中で検出したもので全体の形状は明確でなく、断面図をとり確認した。土坑は西地区と南地区全体に分布している。形状は大別すると円形、楕円形、不整形である。井戸は西地区、南地区西部に分布している。形状は円形である。地下水の水位が高く底部までは調査することができなかった。溝は3本とも規模、形状に違いがあり、関連性は不明である。柱穴と考えられる小ピットが西地区南部から南地区に多数分布していた。掘立柱建物としてのまとまりについては確認できなかった。東地区については等間隔にグリッドを掘り遺構を確認できた部分を拡張して調査したが、調査後の学校造成工事で多数の遺物が出土した。調査した遺構の分布状態と現地表面での土器の散布状況を併せて考えると、本遺跡は調査部分の東西にさらに広がっていると考えられる。

第1節 遺構と遺物

1 かまど

E3かまど1 (第7図 図版5)

西地区東のトレンチ調査部分との境から造成工事中に確認された。南西2mにE3炉3、北北東5mにE3かまど2がある。黒色土中に構築されており、断面調査によると長径1m、短径0.5mほどの掘り込みがある。掘り込みは北側に向かって立ち上がっており、南に焼き口がある。扁平な角礫を組み合わせる両袖、天井、奥壁部を構築している。周辺にも角礫が散乱しており、元の姿はとどめていない。かまどの前面には堅くしまった部分があり床面と考えられる。住居の範囲については工事中的確認とすることもあり精査することができなかった。かまど内と周囲に甑の破片がまとまって出土した。また、かまどの南0.5mに壺形土器が底部と口縁部の一部を破損し横転した状態で出土した。

E3かまど2 (第7図 図版5)

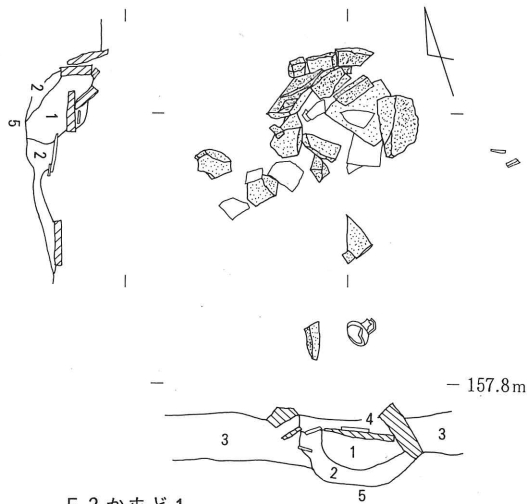
西地区東のトレンチ調査部分の北寄りに位置する。南南西5mにE3かまど1がある。黒色土中に粘土が混入していた部分があった。掘り込みは明確でなく周囲を調査しても住居址の床や壁は認められなかった。断面調査によると西に焼き口がある。天井部分に扁平な角礫があり、それを他の礫で支えている。前面左に粘土塊があり袖の部分と考えられる。出土遺物は皿形土器2個である。南側の小ピットの口部からも皿形土器が出土した。

E4かまど1 (第7図 図版6)

東地区E4グリッド北東に位置する。北北東5mにF5かまど1がある。F5-1グリッドを拡張した際に確認した。周囲を精査することができなかったので住居址については不明である。断面調査のみのため形状は明確でないが南西に焼き口があり、粘土で両袖を構築している。かまど内から甕形土器の破片が出土した。また周囲からは皿形土器が2点出土している。

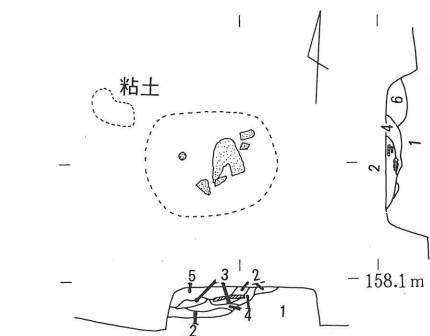
F5かまど1 (第7図 図版6)

東地区F5グリッド南西に位置する。南南西5mにE4かまど1がある。F5-1グリッドの北端の断面調



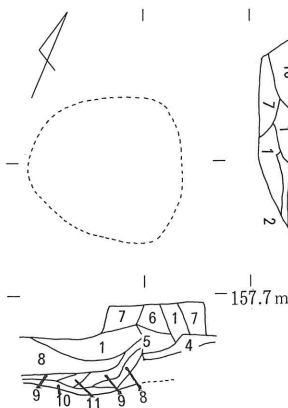
E 3 かまど 1

- 1 焼 土
- 2 黒褐色土 (焼土混入)
- 3 黒褐色土 (焼土少し混入)
- 4 黒褐色土 (焼土小ブロック少し混入)
- 5 黒 色 土 (しまっていてかたい)



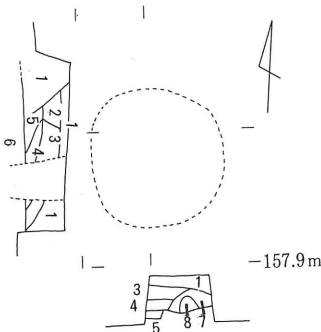
E 3 かまど 2

- 1 黒 色 土 (七本桜軽石粒わずかに混入)
- 2 黒 色 土 (焼土わずかに混入)
- 3 黒 色 土 (焼土、粘土混入)
- 4 黒 色 土 (焼土、粘土多量に混入)
- 5 褐 色 土 (粘土混入)
- 6 黒 色 土 (七本桜軽石粒、粘土、焼土わずかに混入)



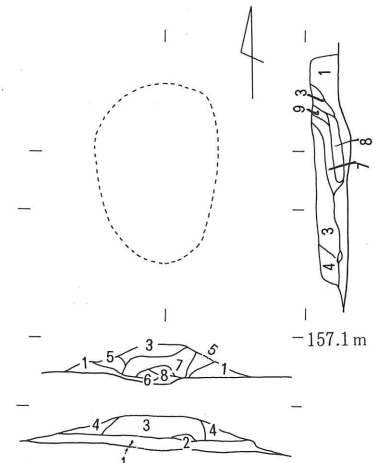
E 4 かまど 1

- 1 黒褐色土 (粘土、今市軽石粒混入)
- 2 粘 土
- 3 黒褐色土 (粘土混入)
- 4 黒褐色土
- 5 黒褐色土 (粘土多量に混入、今市軽石粒混入)
- 6 褐 色 土 (今市・七本桜軽石粒多量に混入、粘土混入)
- 7 黒褐色土 (今市軽石粒少量混入)
- 8 黒褐色土 (粘土、今市軽石粒、焼土混入)
- 9 褐 色 土 (粘土、焼土混入)
- 10 黒褐色土 (七本桜軽石粒少し混入)
- 11 焼 土



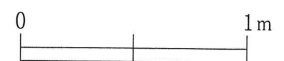
F 5 かまど 1

- 1 黒褐色土 (七本桜・今市軽石粒わずかに混入)
- 2 黒褐色土 (粘土わずかに混入)
- 3 褐 色 土 (粘土、焼土混入)
- 4 粘 土 (焼土混入)
- 5 黒褐色土 (粘土、焼土少し混入)
- 6 黒褐色土
- 7 粘 土 (黒褐色土混入)
- 8 粘 土



F 6 かまど 1

- 1 黒褐色土 (七本桜軽石粒わずかに混入)
- 2 黒 色 土
- 3 黒褐色土 (粘土、焼土少し混入)
- 4 黒褐色土
- 5 粘 土 (焼土少し混入)
- 6 褐 色 土 (焼土多量に混入)
- 7 褐 色 土 (焼土混入)
- 8 焼 土
- 9 黒褐色土 (焼土混入)

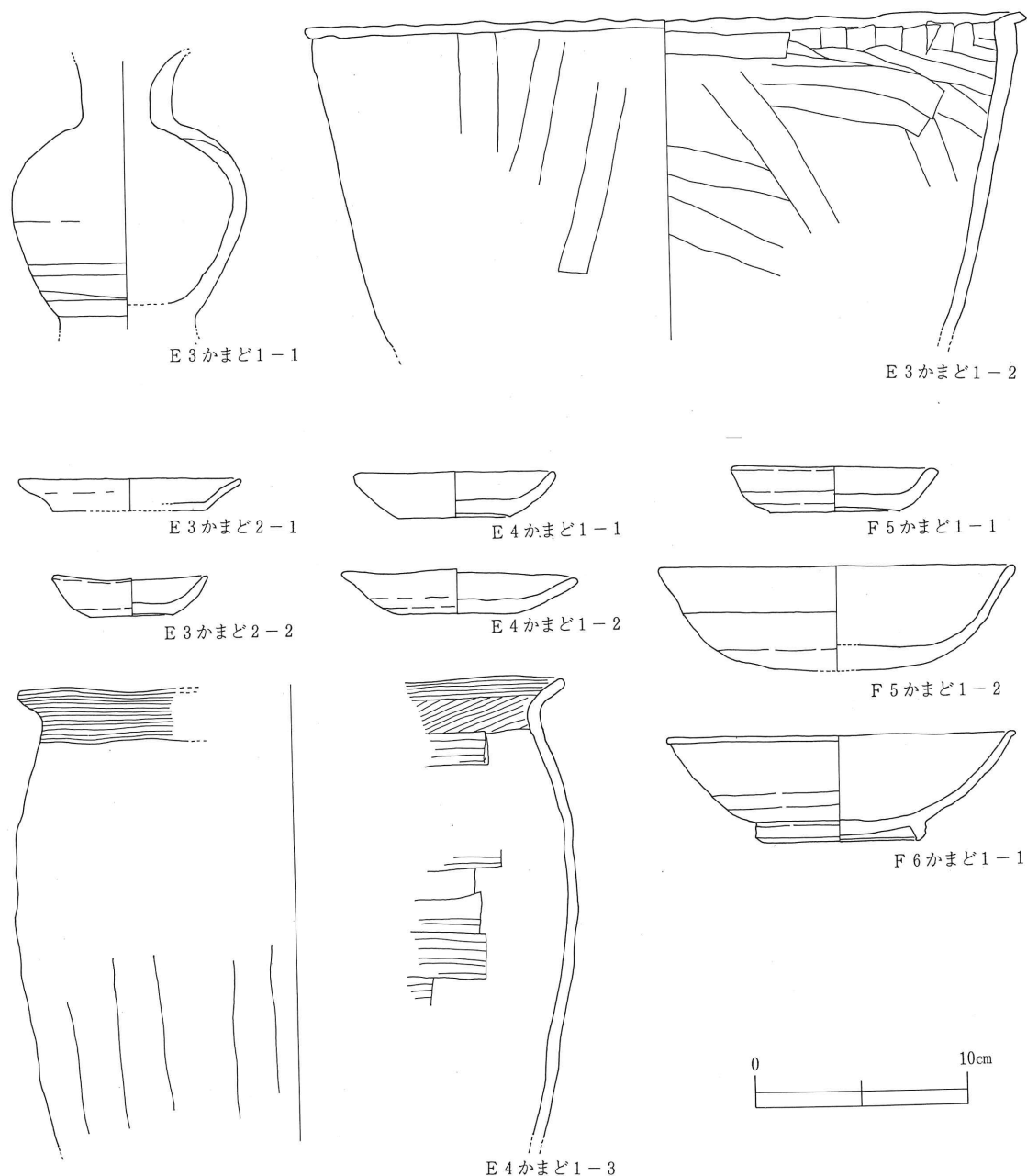


第 7 図 かまど実測図

査用のベルト内で確認した。南に焚き口があり、粘土で構築した片袖があったことにより、かまどと考えられる。グリッド周囲を拡張し調査したところ住居址の壁面は認められなかったが、南に炭化物が一面にあり、床面と考えられる。床面上から皿形土器と甕の破片が出土している。

F 6かまど1 (第7図 図版6)

東地区F 6グリッド中央南寄りに位置する。北北東5mにF 6炉1がある。F 6-1 3グリッド南端で確認し、グリッドを拡張して調査した。両袖を粘土で構築しており、南に焚き口がある。東側に小ピットが多数あるが、本かまどとの関係はわからない。北3mにあるピットの開口部から灰釉がかかった高台付坏が出土している。



第8図 かまど出土遺物

第2表 かまど出土土器観察表

遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
E 3 かまど1-1	壺	— — —	須恵器、高台がつく。底部から僅かに内湾して胴部中央やや上に最大径、大きく内湾して頸部にいたる。	轆轤成形	灰色 内面黒色	口縁部、 底部欠損
E 3 かまど1-2	甑	34.0 — —	口縁部に最大径がある。僅かに内湾して開き、口唇部が外側につまみ出されている。	外面 縦方向の篋削り 内面 篋撫で	茶褐色	口縁部 1/5破片
E 3 かまど2-1	皿	(10.4) (7.3) 1.5	底部は平坦。直線的に開き外側に屈曲して口縁部にいたる。	底面糸切り	赤褐色	1/3破片
E 3 かまど2-2	皿	7.2 4.0 1.8	やや上げ底の底部から僅かに内湾して開く。	底面糸切り	砂粒混入 淡赤褐色	1/3欠損
E 4 かまど1-1	皿	(9.3) (5.3) 2.1	上げ底の底部から内湾して開く。	底面糸切り	微砂粒混入 淡赤褐色	口縁部 1/2欠損
E 4 かまど1-2	皿	10.8 5.6 2.1	底部は平坦。直線的に大きく開く。	底面糸切り	淡赤褐色 内部油煙付着	1/4破片
E 4 かまど1-3	甕	25.5 — —	胴部はやや丸みを持って、立ち上がる。口縁部は外反して開く。胴部やや上に最大径を持つ。	外面 口縁部横撫で。胴部篋削り 内面 口縁部斜めの撫での後横撫で。胴部横方向の篋撫で	赤褐色	1/4破片
F 5 かまど1-1	皿	9.4 6.0 2.1	上げ底の底部からやや内湾して開く。	外面 底面糸切り 内面 撫で	砂粒、小礫混入 淡褐色	完形
F 5 かまど1-2	坏	(16.6) — (4.9)	上げ底の底部からやや内湾して開き、丸底の底部からやや内湾して開き、僅かに外反して口縁部にいたる。口縁部の下に稜がある。	外面 口縁部篋磨き。底部篋で一部整形 内面 前面に丁寧な篋磨き	砂粒混入 外面淡褐色 内面黒色	1/3破片
F 6 かまど1-1	坏	16.1 7.4 5.0	丸底の底部に高台がついている。内湾して開き、口唇は外側につまみだされている。	轆轤成形 外面上半と内面の底部を除いた部分に釉がかっている。	淡灰白色	口縁部 3/4欠損

2 炉

D 2 炉 1 (第9図 図版6)

西地区中央南寄り、溝2と溝3の中間に位置する。黒色土を鍋底状に掘り込み中央に棒状の石があり、その上に土器の台部が伏せて置いてあった。他に砥石が1個、南に0.5mに坏形土器1個が出土している。

D 2 炉 2 (第9図)

西地区南、溝2と溝3の間に位置する。北4mにD 2 炉3がある。黒色土中に灰と焼土が鍋底状にあった。炉祉の下部のローム面で径1mの不整形の小ピットを確認したが、関係は不明である。出土遺物はない。

D 2 炉 3 (第9図 図版6)

西地区南、溝2と溝3の間に位置する。南4mにD 2 炉2がある。黒色土中に灰と焼土があった。出土遺物はない。

D 3 炉 1 (第9図)

西地区南東に位置する。西5mに溝3があり、北西4mにE 3 炉1がある。黒色土中に灰と焼土がわずかに認められた。出土遺物はない。

E 2 炉 1 (第9図)

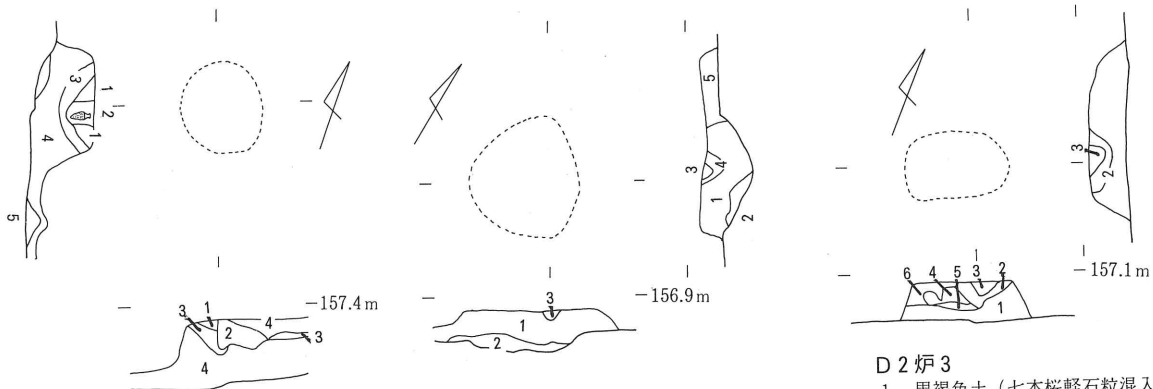
西地区東に溝3と接して位置する。灰と焼土がわずかに認められ、径0.5mの掘り込みがある。溝3に切られている。出土遺物はない

E 3 炉 1 (第9図)

西地区東、溝3の東4mに位置する。南東4mにD 3 炉1、北4mにE 3 炉2がある。黒色土中に灰の塊が認められた。形状は不明である。灰の中に角礫があり、皿形土器が出土した。

E 3 炉 2 (第9図)

西地区東、溝3の東7mに位置する。南4mにE 3 炉1、北東4mにE 3 炉3がある。炭化物と焼土が径0.7



D 2 炉 1

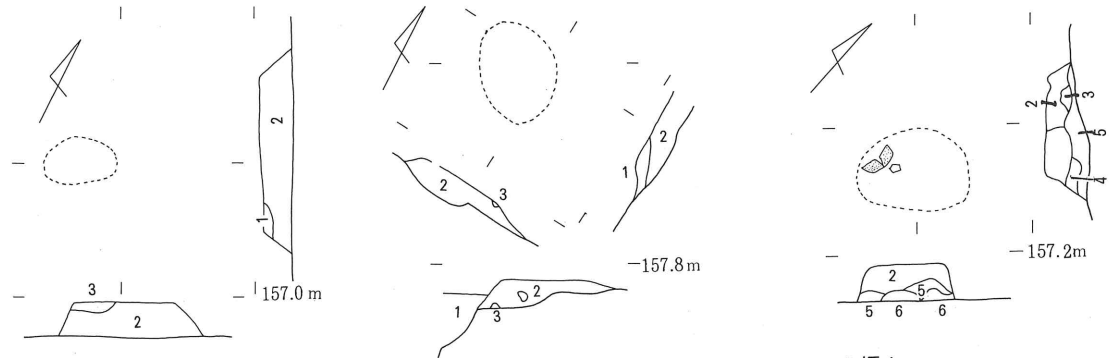
- 1 焼 土
- 2 赤褐色土 (焼土混入)
- 3 黒 色 土 (焼土少量混入)
- 4 黒 色 土 (七本桜・今市軽石小ブロックわずかに混入)
- 5 黒 色 土 (七本桜・軽石粒多量に混入)

D 2 炉 2

- 1 黒褐色土
- 2 黒褐色土 (七本桜・軽石ブロック混入)
- 3 黒褐色土 (灰、焼土混入)
- 4 黒褐色土 (灰、焼土少量混入)
- 5 七本桜軽石ブロック

D 2 炉 3

- 1 黒褐色土 (七本桜軽石粒混入、焼土少量混入)
- 2 焼 土 (炭化物混入)
- 3 灰 (黒褐色土、炭化物混入)
- 4 灰 (黒褐色土混入)
- 5 灰
- 6 黒褐色土 (焼土、灰少量混入)



D 3 炉 1

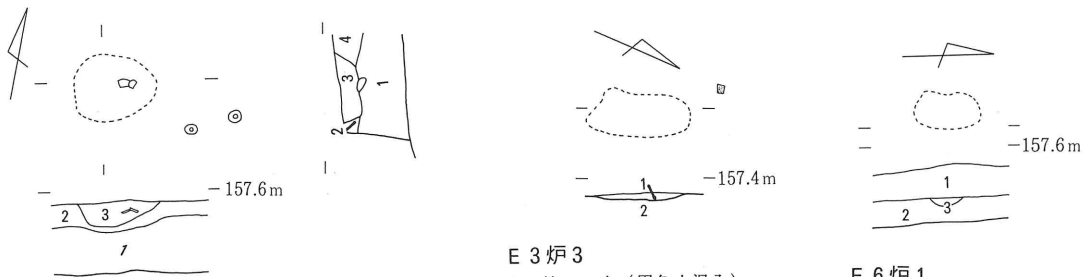
- 1 茶褐色土
- 2 黒褐色土 (七本桜軽石粒少し混入)
- 3 黒褐色土 (灰、焼土混入)

E 2 炉 1

- 1 黒褐色土 (七本桜・今市軽石粒わずかに混入)
- 2 黒褐色土 (灰わずかに混入)
- 3 黒褐色土灰、焼土混入)

E 3 炉 1

- 1 灰 (黒色土混入)
- 2 黒褐色土 (七本桜軽石粒、灰少量混入)
- 3 黒褐色土 (2に今市軽石粒混入)
- 4 黒褐色土 (七本桜軽石粒、ブロック混入)



E 3 炉 2

- 1 黒 色 土 (七本桜軽石粒混入)
- 2 褐 色 土 (炭化物、焼土混入)
- 3 褐 色 土 (炭化物、焼土多量混入)
- 4 褐 色 土 (七本桜軽石粒わずかに混入)

E 3 炉 3

- 1 焼 土 (黒色土混入)
- 2 黒 色 土

F 6 炉 1

- 1 黒褐色土
- 2 黒 色 土 (七本桜軽石粒少量混入)
- 3 焼 土



第 9 図 炉実測図

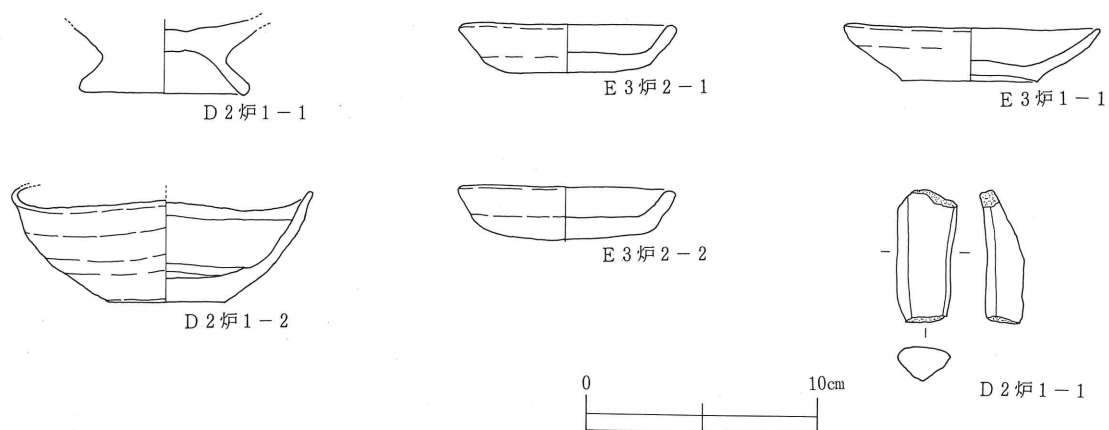
mの範囲に鍋底状にあった。炉内に甕の破片があった。また、東側から皿形土器が2点、完形で出土している。

E 3 炉 3 (第9図)

西地区東部のトレンチ調査の部分の北よりに位置し、確認調査のE 3-1 3グリッド南西部分にあたる。南西4mにE 3 炉 2、北西2mにE 3 かまど 1がある。黒色土中に焼土が長径0.9m、短径0.4mの範囲にあった。周辺から甕の破片が多数出土している。調査の時期がずれているため、E 3 かまど 1との関係は不明である。

F 6 炉 1 (第9図 図版6)

東地区F 6グリッド中央やや北東寄り、F 6-1 3グリッドを拡張した部分に位置する。黒色土中に長径0.6m、短径0.3mの範囲に焼土があった。



第10図 炉出土遺物

第3表 炉出土土器観察表

遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
D 2 炉 1-1	坏?	— 7.0 —	台部は直線的にハの字に開く。		淡黄褐色	台部残存
D 2 炉 1-2	坏	(12.9) 5.1 4.5	底部は平坦。内湾して開く 口縁部は波打っている。	轆轤成形 底部糸切り	白微砂粒混入 外面淡黄褐色 内面淡褐色	口縁部 2/3欠損
E 3 炉 1-1	皿	10.9 5.9 2.3	上げ底の底部から僅かに内湾して開く。	底部糸切り	砂粒少し混入 淡褐色	口縁部 2/3欠損
E 3 炉 2-1	皿	9.1 6.2 2.1	ほぼ平坦な底部から直線的に開く。	底部糸切り	砂粒混入 淡黄褐色	完形
E 3 炉 2-2	皿	9.4 5.9 2.3	丸底気味の底部から直線的に開く。	外面 横撫で 内面 横撫で	砂粒混入 黄褐色	完形

3 土坑

A 2 土坑 1 (第11図)

南地区南西に位置する。隅丸長方形を呈し、規模は上面で0.95m×0.45m、底面で0.70m×0.30m、深さは0.35mである。壁は幾分斜めになっている。底面は平坦である。土坑内に3個の石が立ててあった。出土遺物はない。

A 2 土坑 2 (第11図 図版7)

南地区南端、ローム面が南に傾斜している部分に位置する。南1.5mにA 2 土坑 3、西1mにA 2 井戸 1がある。東西方向に長い土坑である。上面の南から東にかけての部分は削られていて、本来は長方形を呈すると考えられる。規模は上面で長径4.1m、短径1.3m、深さは最深部で0.5mである。壁は緩やかに傾斜し、底部は船底状になっている。覆土は5層からなり、丁寧に埋めた様子が見られる。3層と4層の境に粘土が薄くしいてあった。底部西端に10cmほどの石があった。その石の上0.3mの土坑の上面近くに河原石が2個重なるようにして出土した。覆土中から内耳土器の破片が出土している。

A 2 土坑 3 (第11図 図版7)

南地区南端、ローム面が南に傾斜している部分に位置する。北1.5mにA 2 土坑 2、同じく北1mにA 2 井戸 1がある。形状は不整な長方形である。規模は上面で2.15m×1.10mである。底部は三段に分かれており、形状と合わせて考えると、3個の土坑が切り合っている可能性がある。出土遺物はない。

A 2 土坑 4 (第11図 図版7)

南地区南東寄りに位置する。西1.5mにA 2 土坑 5、東3.5mにA 3 土坑 1がある。不整形の土坑で最大径が4mほどある。底面は少し凸凹している。覆土は6層からなるが、黒色土を主体にしたものでしまりがいい。近年攪乱されたものと考えられる。覆土から内耳土器片が出土している。

A 2 土坑 5 (第11図)

南地区南寄りに位置する。東1.5mにA 2 土坑 4、北東2mにB 2 井戸 1がある。形状は隅丸長方形で規模は2m×0.6mである。深さは開口部から0.2m、底面は平坦である。出土遺物はない。

A 3 土坑 1 (第11図)

南地区南東部に位置する。西3.5mにA 2 土坑 4、北1.5mにB 3 土坑 1、東に近接して溝 1がある。形状は不整な楕円形である。規模は長径2.8m、短径1.2mである。底面は凸凹している。深さは最深部で0.4mである。出土遺物はない。

B 1 土坑 1 (第11図)

南地区北西隅に位置する。形状は隅丸長方形、規模は1.8m×0.7mである。底面は平坦で、深さは0.07mである。出土遺物はない。

B 2 土坑 1 (第11図)

南地区北部西寄りに位置する。南に近接してB 2 土坑 2がある。形状は隅丸長方形である。規模は1.6m×0.9mである。底面は平坦で深さは0.1mである。底面に小ピットが2個あるが本土坑に伴うものではない。出土遺物はない。

B 2 土坑 2 (第11図)

南地区北部西寄りに位置する。北に近接してB 2 土坑 1がある。不整形の土坑で規模は長径1.8m、短径1.2mである。底部は鍋底上で、2段になっている。小ピットがあるが本土坑に伴うものではない。出土遺物はない。

ない。

B 2 土坑 3 (第11図)

南地区北部中央に位置する。北東2mにC 2 土坑 1、南東1.5mにB 2 土坑 4がある。形状は不整形であるが上部が削られているので本来は長方形を呈すると考えられる。規模は現状で2.7m×0.6mである。小ピットとの関係は不明である。出土遺物はない。

B 2 土坑 4 (第11図)

南地区北部中央に位置する。北西1.5mにB 2 土坑 3がある。形状はほぼ円形である。規模は径1.1mで深さは0.1mである。出土遺物はない。

B 2 土坑 5 (第12図 図版 8)

南地区北西に位置する。北東2.5mにB 2 土坑 2、南1mにB 2 井戸 4がある。形状は不整形で、底面は凸凹しており、壁面も明確ではない。規模は長径3m、短径1.8mである。覆土は5層からなる。底部の一部が深くなっており、水がでている。発掘当初は井戸かとも考えたが規模が小さく、用途は判然としない。水がでてくる部分の覆土は柔らかいが、他の部分は堅い。開口部付近に皿形土器が4個重なって出土した。その他、覆土から内耳土器等の破片が出土している。

B 2 土坑 6 (第11図)

南地区中央北寄りに位置する。南西1mにB 2 井戸 2がある。不整形で径1.2m、深さ0.2mである。全体的に凸凹しており、底面は明確でない。覆土は2層からなりしまりが無い。出土遺物はない。風倒木の跡と考えられる。

B 2 土坑 7 (第12図 図版 7)

南地区西寄りに位置する。近接して北にB 2 井戸 4、南西にB 2 土坑 8がある。不整形で径2mほど、深さ0.5mである。覆土は7層からなるが、黒褐色土中に七本桜軽石層と今市軽石層のブロックが多量に混入している。出土遺物はない。

B 2 土坑 8 (第12図 図版 8)

南地区西寄りに位置する。近接して北東にB 2 土坑 7、西にB 2 土坑 9がある。不整形で径1.5m、深さ0.65mである。覆土は7層からなるが、黒褐色土が主体で七本桜軽石粒と今市軽石粒が混入している。出土遺物はない。

B 2 土坑 9 (第12図)

南地区西端中央に位置する。近接して東にB 2 土坑 8、南にB 2 土坑 10がある。形状は長方形である。規模は1.9m×0.65m、深さは0.15mである。底面は平坦である。出土遺物はない。

B 2 土坑 10 (第12図)

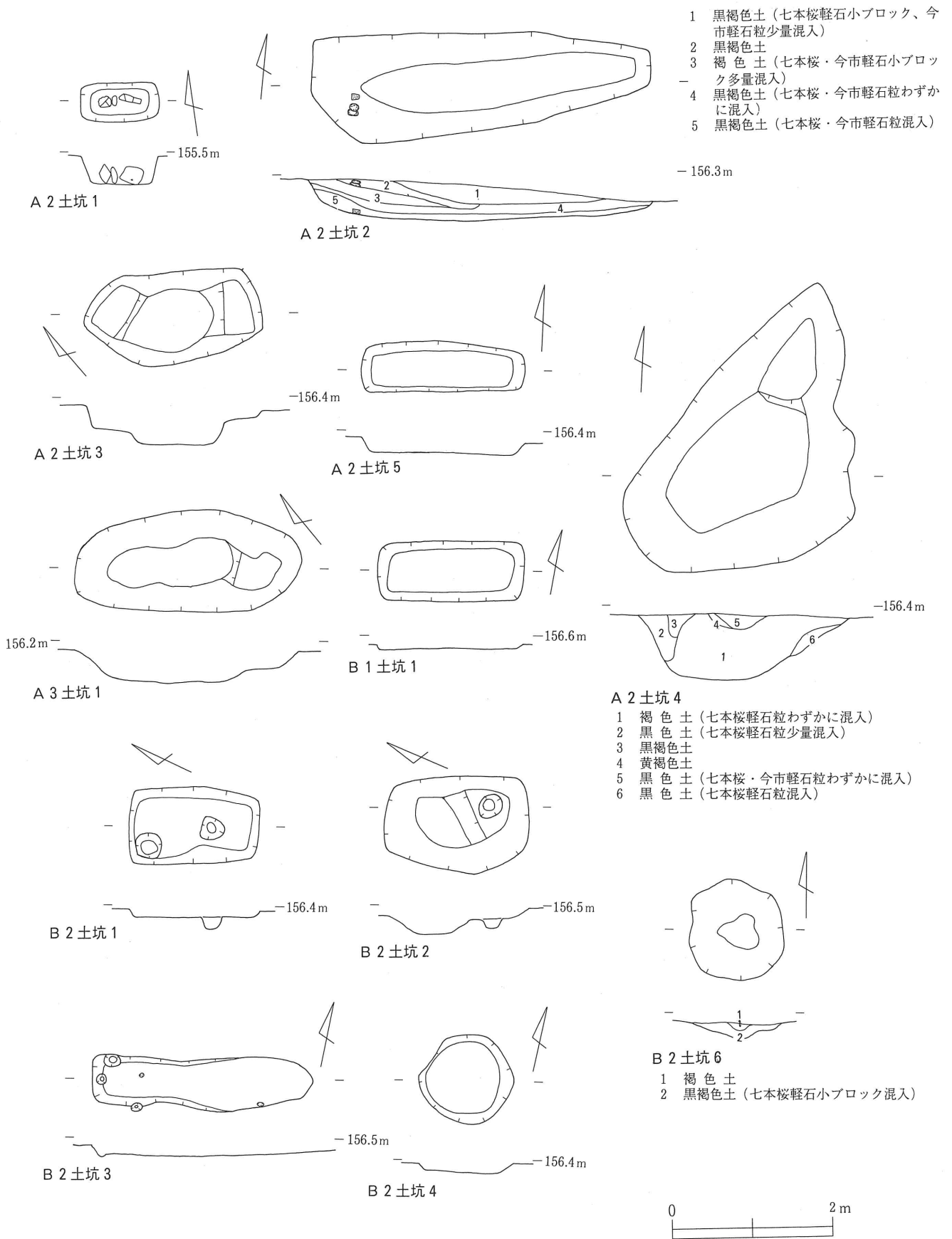
南地区西端中央に位置する。近接して北にB 2 土坑 9がある。形状はほぼ正方形である。規模は径0.7m、深さは0.25mである。出土遺物はない。

B 3 土坑 1 (第12図)

南地区南東、溝 1 の西2mに位置する。南1.5mにA 3 土坑 1、北3mにB 3 土坑 2がある。不整形で、径1m、深さ0.2mである。底面は平坦である。出土遺物はない。

B 3 土坑 2 (第12図)

南地区南東、溝 1 の西2mに位置する。南3mにB 3 土坑 1がある。不整形で径1mほど、底面は明確でなく全体的に凸凹している。出土遺物はない。風倒木の跡と考えられる。



第11図 土坑実測図(1)

C 1 土坑 1 (第12図 図版 8)

西地区南西隅に位置する。北7mにD 1 井戸 1がある。少しいびつな長方形で底面は平坦である。壁はほぼ垂直で、深さは0.6mである。水が出て底部は明確でない。出土遺物はない。

C 2 土坑 1 (第12図)

南地区北部中央に位置する。道路部分にかかっていたため一部の調査となり規模などは不明である。出土遺物はない。

C 3 土坑 1 (第12図)

南地区北東、溝 1 の北に位置する。楕円形で規模は長径1.3m、短径0.9mである。深さは0.3mで底面は平坦である。出土遺物はない。

D 1 土坑 1 (第14図 図版 9)

西地区中央西寄りに位置する。南5mに溝 2、北西4mにD 1 土坑 2がある。円形で径0.95m、深さ0.5mである。底面は平坦で、径0.55mである。壁は底面から0.3mまで垂直に立ち上がり、口部に向かって二段に広がる。覆土は黒褐色土で七本桜軽石粒と今市軽石粒が少し混入していて、やわらかい。土器片が少量出土している。

D 1 土坑 2 (第14図 図版 9)

西地区中央北西寄りに位置する。南8mに溝 2、南東4mにD 1 土坑 1がある。楕円形で規模は長径1.1m、短径0.85mである。底面は平坦で深さは0.35mである。壁は0.05mほどオーバーハングしている。土器 1 片と鉄滓が出土している。

D 1 土坑 3 (第14図 図版 9)

西地区西部に位置し溝 2 に切られている。西2mにD 1 土坑 4、南2.5mにD 1 土坑 5がある。不整な楕円形で、規模は長径1.5m、短径1.2mである。底面はほぼ平坦である。壁は底面から幾分オーバーハングして立ち上がり、開いて口部に至る。覆土は4層からなる。溝 2 の底部に当たる部分は七本桜軽石粒と今市軽石粒が多量に混入している黒褐色土が15cm~20cm敷き詰められている。溝を掘削した際に底面を補強したと考えられる。底部付近は水分が多く粘性が強かった。底部の黒色土中には竹のような植物質の物が多量にあり、その中から植物の種子やコガネムシがでてきた。出土遺物はない。

D 1 土坑 4 (第14図)

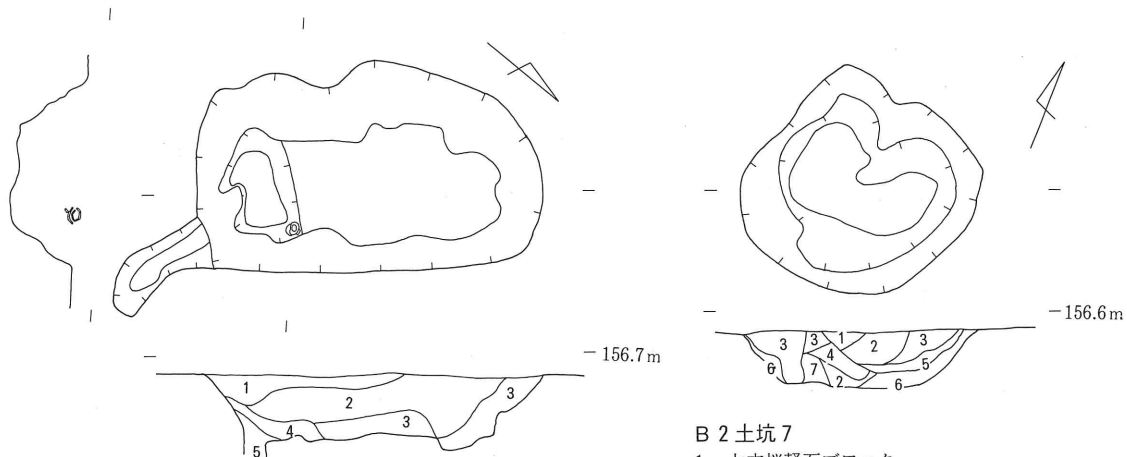
西地区西部に溝 2 の南に接して位置する。底部の一部が小ピットと切り合っている。東2mにD 1 土坑 3、南東3mにD 1 土坑 5がある。長楕円形で規模は長径3m、短径0.6mである。底部は平坦で深さは0.1mである。覆土は七本桜軽石粒と今市軽石粒が少量混入している黒褐色土である。出土遺物はない。

D 1 土坑 5 (第14図)

西地区南西、溝 2 によって囲まれた部分に位置する。北2.5mにD 1 土坑 5、北西3mにD 1 土坑 4がある。細長い不整形で、長径2.75m、短径0.7mほどである。ごく浅い土坑で土坑の底面部分のみの痕跡と思われる。覆土は七本桜軽石粒が少量混入している黒褐色土である。出土遺物はない。

D 2 土坑 1 (第14図)

西地区東部に位置し、溝 3 と切り合っている。南1.5mにD 2 土坑 2、北西2mにE 2 土坑 2がある。溝 3 が東に接しているため開口部の形ははっきりしないが、径2.8mのほぼ円形であると考えられる。確認面から0.5mで水が出てきてしまって深さと底部の状態はわからない。土器が多数出土しており、皿形土器 1 点と高

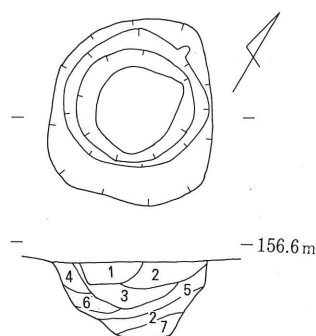


B 2 土坑 5

- 1 黒褐色土（七本桜軽石粒わずかに混入）
- 2 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒少量混入）
- 3 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒混入）
- 4 黒褐色土（3に今市軽石ブロック混入）
- 5 黒褐色土（七本桜軽石小ブロックわずかに混入）

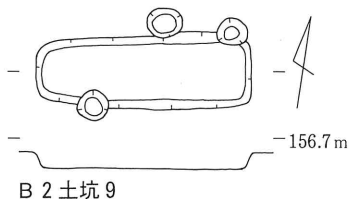
B 2 土坑 7

- 1 七本桜軽石ブロック
- 2 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒混入）
- 3 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒少量混入）
- 4 黒褐色土（3に七本桜軽石ブロック混入）
- 5 黒褐色土（七本桜軽石粒わずか、今市軽石粒多量混入）
- 6 赤褐色土（今市軽石に黒褐色土混入）
- 7 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒多量混入）

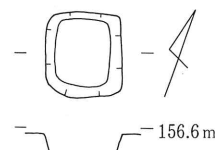


B 2 土坑 8

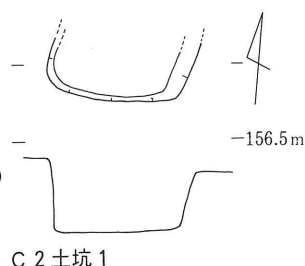
- 1 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒少量混入）
- 2 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒わずかに混入）
- 3 黒褐色土（七本桜・今市軽石粒混入）
- 4 黒褐色土（七本桜軽石粒混入、今市軽石粒少量混入）
- 5 黒褐色土（七本桜軽石粒小ブロック混入）
- 6 黒褐色土（七本桜軽石粒少量混入、今市軽石粒混入）
- 7 黒褐色土（2に砂質土混入）



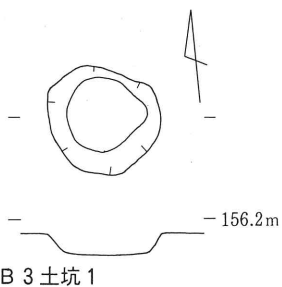
B 2 土坑 9



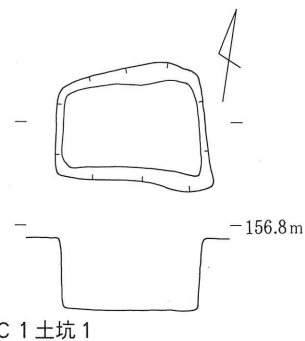
B 2 土坑 10



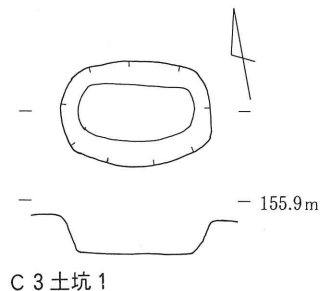
C 2 土坑 1



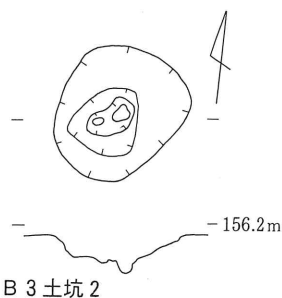
B 3 土坑 1



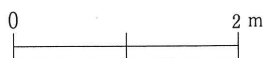
C 1 土坑 1



C 3 土坑 1



B 3 土坑 2



第12図 土坑実測図(2)

台付坏 1 点が図示しえた。

D 2 土坑 2 (第14図)

西地区東部、溝 3 の西に接して位置する。北1.5mに D 2 土坑 1 がある。D 2 土坑 3 と切り合っている。不整な楕円形で長径2.6m、短径2.3mほどである。開口部から0.3mで水が出てきてしまって深さなど詳しいことは不明である。覆土から内耳土器片、砥石 1 個が出土している。

D 2 土坑 3 (第14図)

西地区東部、溝 3 の西1.5mに位置する。D 2 土坑 2 と切り合っている。不整な円形で径1.2mほどである。壁は一部が少しオーバーハングしている。深さは推定1mほどであるが水が出てしまって詳細は不明である。覆土から皿形土器が 1 個出土している。

D 3 土坑 1 (第13図)

西地区南東部に位置する。溝 3 と切り合っていて平面形は明確でないが、不整な円形で径1.9mほどである。水が開口部まで出ていて詳細は不明である。内耳土器片が出土している。

E 2 土坑 1 (第13図)

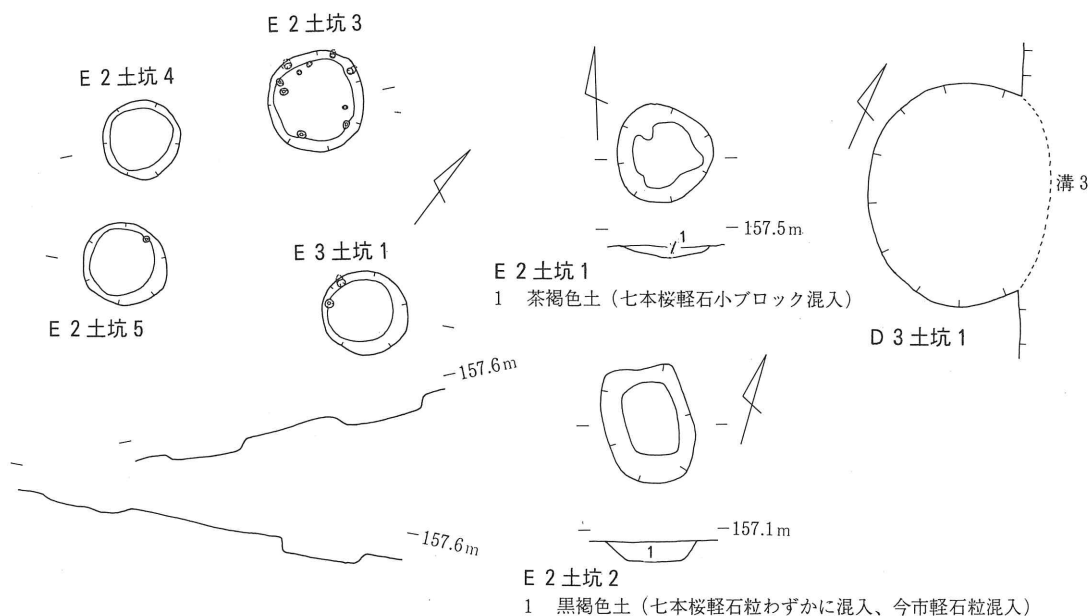
西地区北西部、溝 3 の西3.5mに位置する。不整な円形で径0.8mほどである。鍋底状で底部は凸凹している。覆土は 1 層で、七本桜軽石粒と七本桜軽石小ブロックが混入している茶褐色土である。出土遺物はない。

E 2 土坑 2 (第13図)

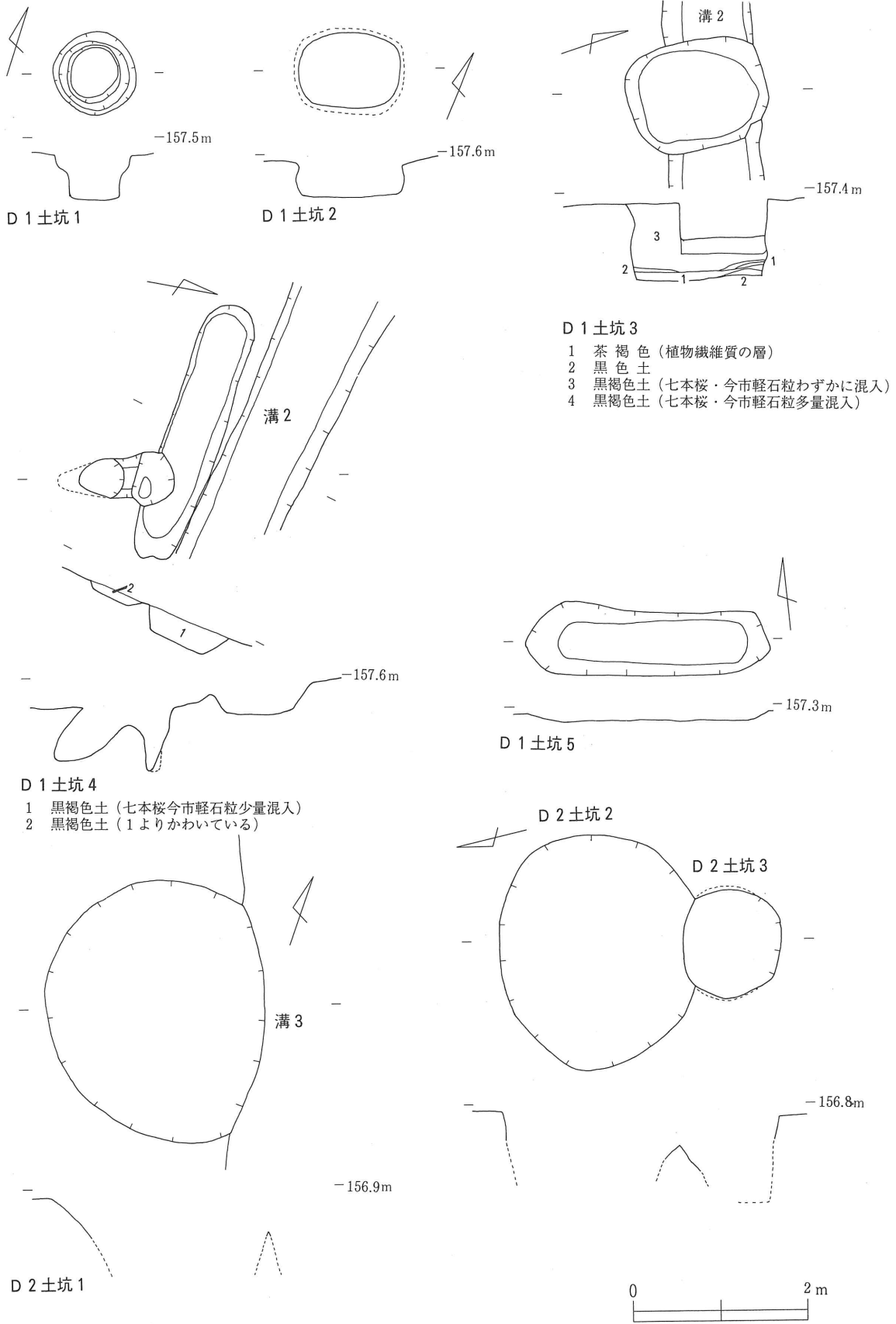
西地区東部中央、溝 3 の西2.5mに位置する。不整な楕円形で長径1m、短径0.75m、深さは0.15mである。覆土は 1 層で今市軽石粒が混入している黒褐色土である。出土遺物はないが、拳大の角礫が 4 個覆土中に入った。

E 2 土坑 3、E 2 土坑 4、E 2 土坑 5、E 3 土坑 1 (第13図 図版 9)

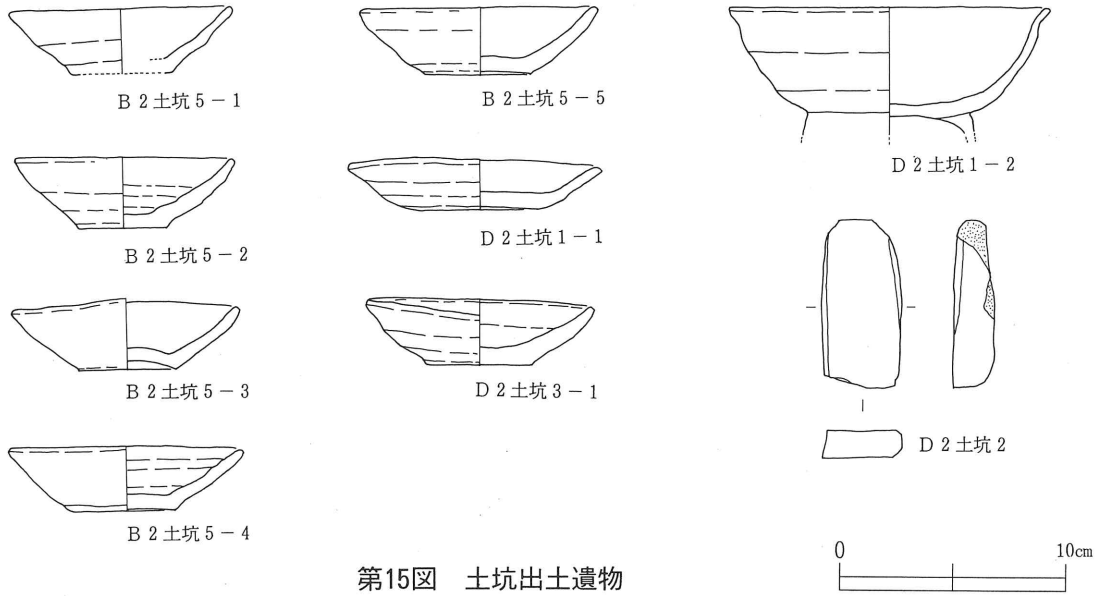
西地区北東部、溝 3 の東に位置する。同様な土坑が 4 個まとまっていた。ほぼ円形で、規模は最大の土坑で径0.9m、最小の土坑で径0.65mである。底面は平坦で、3 個の土坑の壁際には小ピットがある。すべての土坑の覆土は 1 層で七本桜軽石粒、炭化物、焼土が混入している黒褐色土である。出土遺物はない。



第13図 土坑実測図(3)



第14図 土坑実測図(4)



第15図 土坑出土遺物

第4表 土坑出土土器観察表

遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
B 2 土坑 5-1	皿	9.4 (4.4) 2.8	底部は平坦。直線的に開く	轆轤成形	砂粒混入 淡赤褐色	底部欠損 2/3破片
B 2 土坑 5-2	皿	9.4 3.8 3.0	底部は平坦。僅かに内湾し開く。	轆轤成形 底部糸切り	砂粒混入 淡黄褐色	口縁部 1/4欠損
B 2 土坑 5-3	皿	9.6 4.2 2.9	大きく上げ底になった底部から僅かに内湾して開く。	底部糸切り	砂粒混入 淡黄褐色	完形
B 2 土坑 5-4	皿	9.9 4.3 2.8	底部は僅かに上げ底。直線的に開く。	轆轤成形 底部糸切り後、篋で整形	砂粒混入 淡褐色	口縁部 一部欠損
B 2 土坑 5-5	皿	10.0 4.6 2.9	底部は僅かに上げ底。僅かに内湾して開く。	底部糸切り後篋で整形	砂粒混入 淡褐色	完形
D 2 土坑 1-1	皿	10.6 5.1 2.2	底部は僅かに上げ底。直線的に開く。	底部糸切り	白色砂粒混入 赤褐色	口縁部 1/4欠損
D 2 土坑 1-2	坏	13.6 — —	高台がつく底部から内湾して立ち上がり口縁部は外反する。	轆轤整形 内面 丁寧な篋磨き	小礫少し混入 外面赤褐色 内面黒色	2/3欠損
D 2 土坑 3-1	皿	9.6 4.6 2.8	底部は平坦。僅かに内湾して開く。	轆轤整形 底部糸切り。	砂粒、小礫少し混入 淡褐色	口縁部 一部欠損

4 井戸

A 2 井戸 1 (第16図 図版10)

南地区南西部に位置する。近接してA 2 土坑 2、A 2 土坑 3がある。不整形で、最大径は1.7mである。水が出てきて、深さは不明である。覆土は4層からなり、口部付近は自然に崩落した跡が見られる。中央部の深さ0.3mから角礫が1個でている。井戸がほぼ埋まった時に投げ込まれたものと考えられる。出土遺物はない。

B 2 井戸 1 (第16図)

南地区中央南寄りに位置する。南東2mにA 2 土坑 5がある。不整な円形で径1mほどである。水が出て底部は不明である。内耳土器などの土器片が出土した。

B 2 井戸 2 (第16図 図版10)

南地区中央に位置する。北西1mにB 2 土坑 6、南東3mにB 2 井戸 3がある。不整形で径1.05mほどである。中央部の口部から深さ0.7mにかけて河原石、角礫が多数投げ込まれた状態であった。その中に石臼の破片が3個あった。その他、内耳土器の破片が出土している。

B 2 井戸 3 (第16図 図版10)

南地区中央に位置する。北西3mにB 2 井戸 2がある。不整形で、長径1.3mほどである。底部は不明である。出土遺物としては陶器片が1個あった。

B 2 井戸 4 (第16図)

南地区西部北寄りに位置する。近接して北にB 2 土坑 5、南にB 2 土坑 7がある。南側に径0.65mほどの土坑があり切り合っているが、本井戸との関係は不明である。不整な円形で径1.4mほどである。壁は開口部から0.3mまで垂直になっていて傾斜が緩やかになり、深さ0.5mから垂直に落ちる。深さ0.85mで水が出て底部は不明である。河原石と角礫が多数出ている。出土遺物としては香炉形土器、内耳土器の破片がある。

D 1 井戸 1 (第16図 図版10)

西地区西部南寄りに位置する。南6.5mにC 1 土坑 1、北東8mにD 1 土坑 5がある。不整な円形で径1.05mほどである。壁は開口部から0.25mの部分でわずかにオーバーハングしている。深さ0.35mで水が出て底部は不明である。出土遺物はない。

D 2 井戸 1 (第16図)

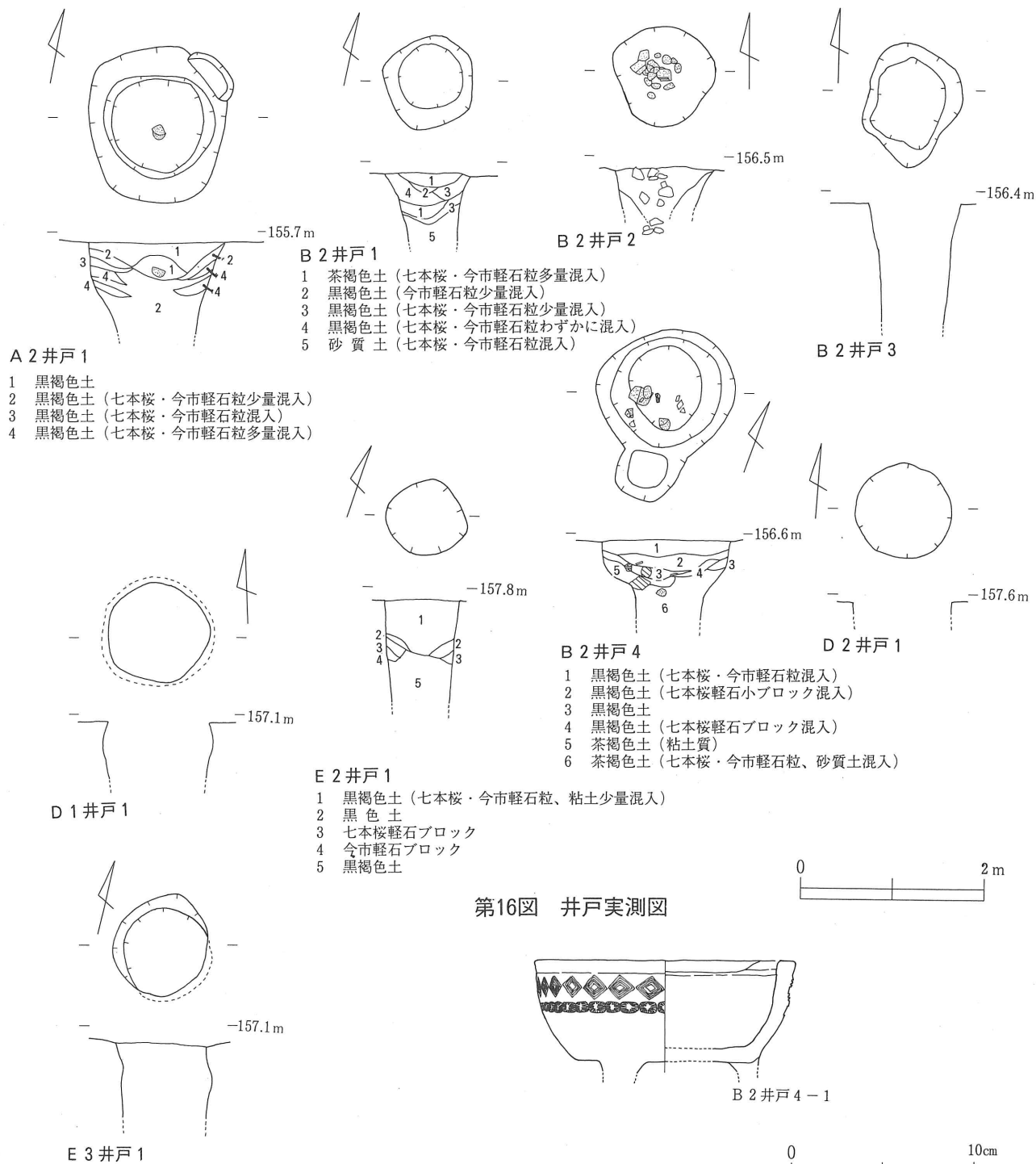
西地区南西部、溝 2 の西1.5mに位置する。径 1 mほどの円形である。開口部まで水が出ていて、詳細は不明である。

E 2 井戸 1 (第16図 図版10)

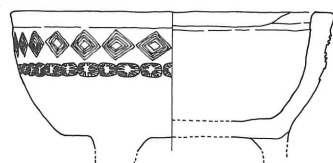
西地区北寄りに位置する。周囲には他の遺構がない。不整な円形で、径0.8mほどである。壁はほぼ垂直である。開口部から1.1mで水が出て、底部は不明である。覆土は5層からなり、深さ0.5mの部分に壁が崩落した跡がある。出土遺物はない。

E 3 井戸 1 (第16図 図版10)

西地区東部、溝 3 の東2mに位置する。北西2.5mにE 2 炉 1、南東2.5mにE 3 炉 1、北東3mにE 3 炉 2がある。不整な楕円形で、長径1.1m、短径1mである。開口部から0.3mの部分で南東に少しゆがんでいる。覆土は1層で七本桜軽石粒がわずかに混入した黒褐色土である。開口部から0.8mのところまで水が出て底部は不明である。出土遺物はない。

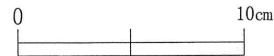


第16図 井戸実測図



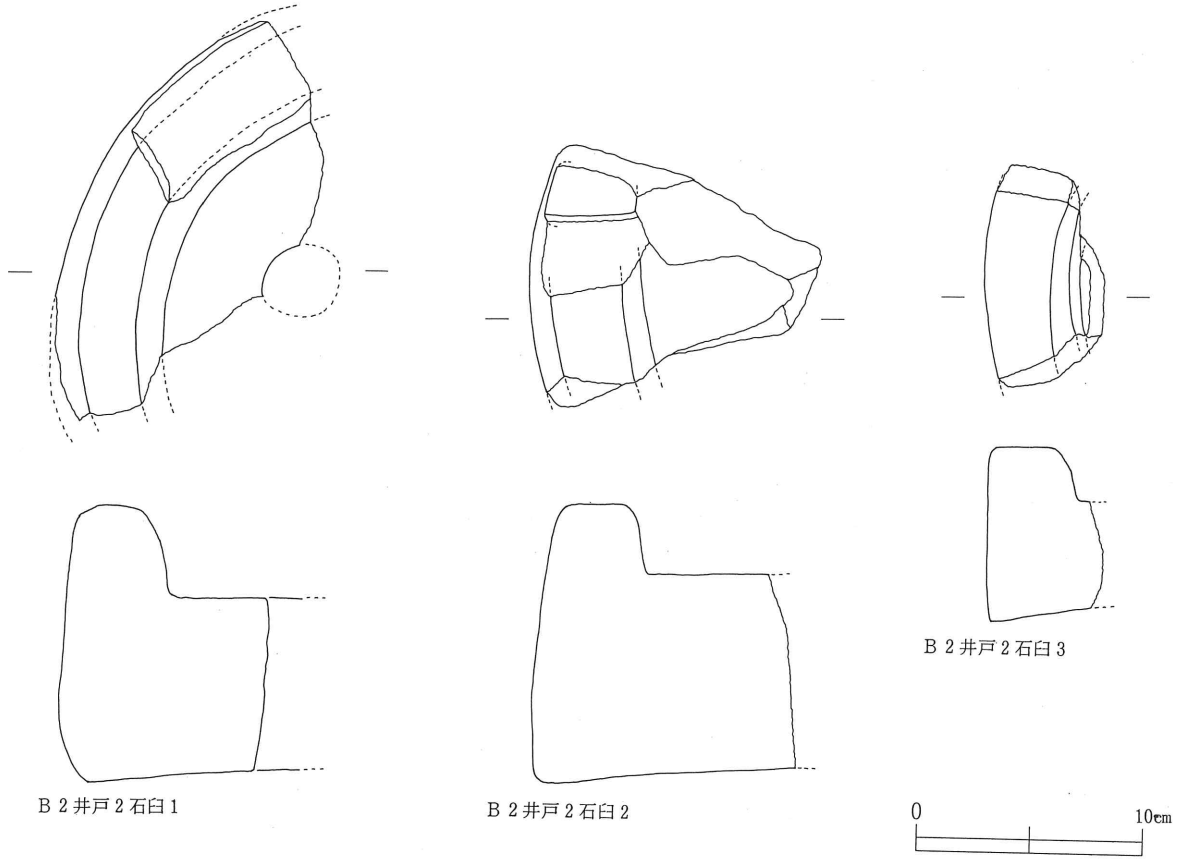
B 2 井戸 4-1

第17図 井戸出土遺物(1)



第5表 井戸出土土器観察表

遺構・グリッド-番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
B 2 井戸 4-1	香炉	(13.8) (9.5) -	三足付香炉と考えられる。平坦な底部からやや内湾し口縁部は直線的に立ち上がる。口唇部は面取りされている。外部口縁下に菱形文と印花文が二段に施されている。		砂粒混入 赤褐色	1/3破片



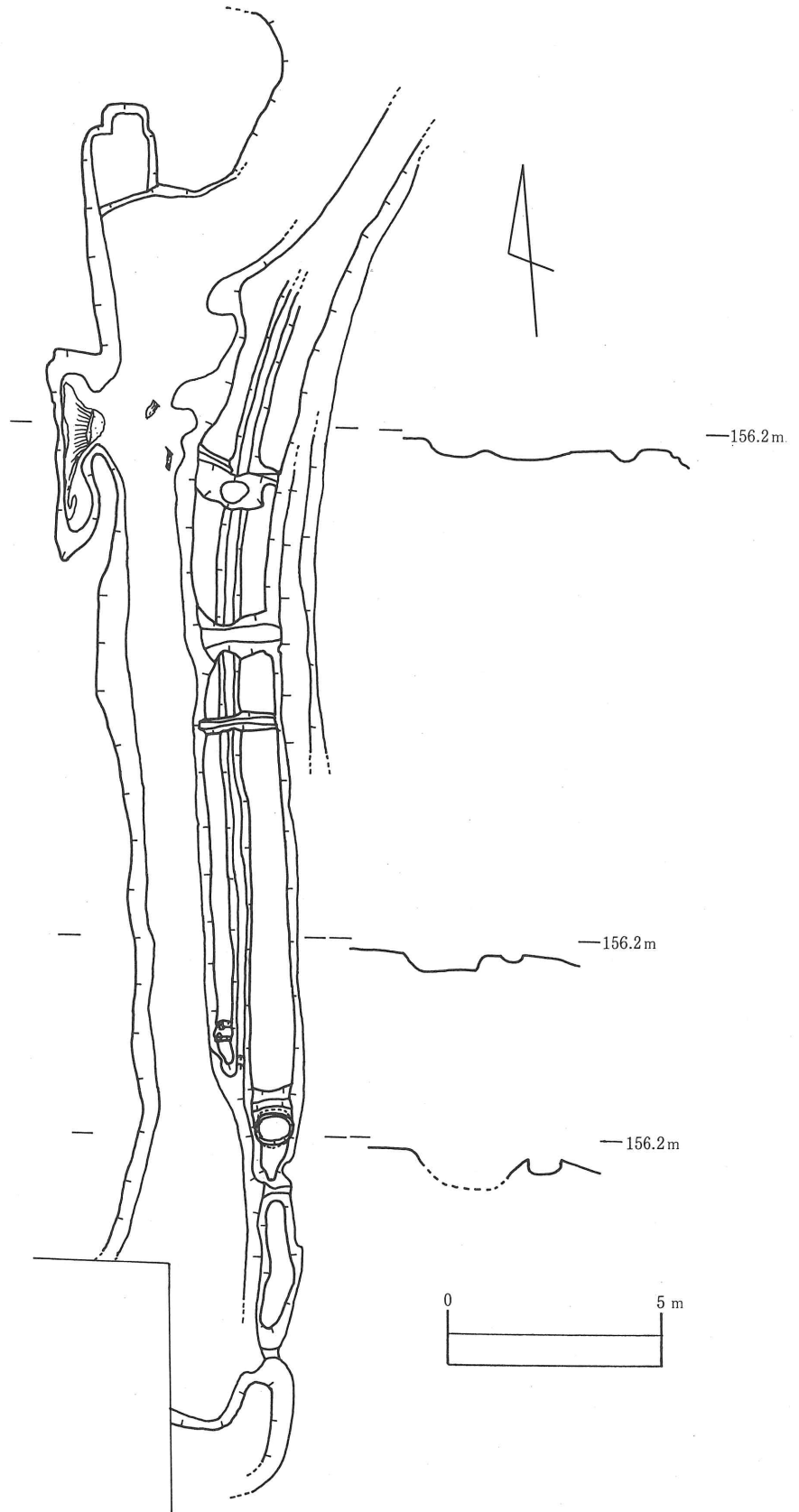
第18図 井戸出土遺物(2)

5 溝

溝1 (第19図 図版11)

南地区東端に南北にのびている。長さ31m、幅2m (A溝)と長さ20m、幅0.5m (B溝)の2本の溝を主体とした遺構である。

A溝の北端は凸状になっており底面が高くなっている。北東部分は底面が徐々に低くなっていき明確でない。南北に伸びる溝との境部分は石と木で堰のように止められていた。道路を挟んで北側の溝3との関係は不明である。西側北寄りに径1mほどの木の根元部分が横倒しになった状態であった。溝の内部にかかる部分で切断されていることより、木が倒れているところに溝を掘削したと考えられる。なお溝の底部にも同じ木の破片が2個あった。底面は水が出てくるので判然としないが、南に向かって徐々に深くなっている。B溝と合流する南部分一体の底部には拳大から人頭大の石が多量にあった。この部分の東側に現水田面への水の出口のような部分が2カ所ある。その北側に楕円形の土坑がある。長径0.9m、短径0.7m、深さ0.4mで壁がオーバーハングしている。土坑の北側は断面がV字状



第19図 溝1 実測図

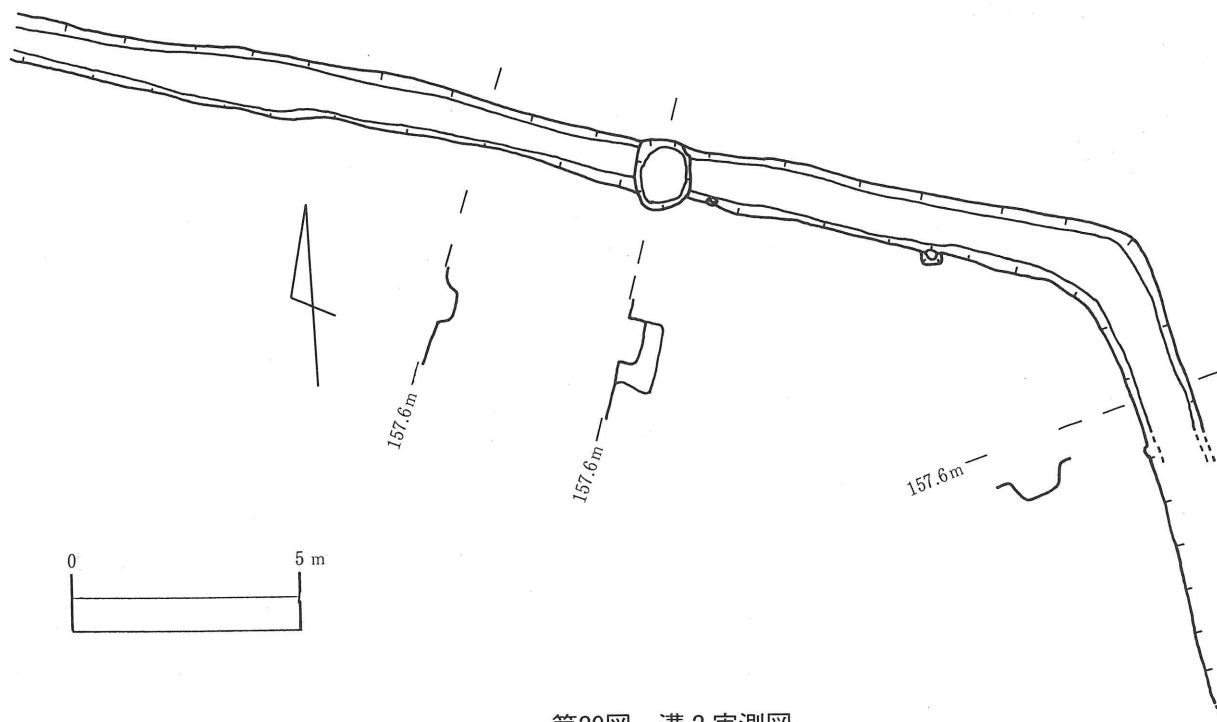
に削られている。土坑内からの出土遺物はない。南端西側にはコンクリートでできた貯水池があり不明である。溝の覆土内から皿形土器、内耳土器などが出土している。

B溝はA溝の東側の堤状に高くなっている部分にある。北端はA溝と同様に不明である。南端はA溝に合流している。合流部分には砂が堆積しており、B溝からA溝に水が流れ込んだことがわかる。溝を直角に横切る形でA溝と東側の現水田面を結ぶように小溝が3本ある。また、A溝との合流地点の1.5m北にA溝とB溝をつなぐように掘られた部分がある。その底面には外側に向かって斜めに掘られた深さ5cmほどの小ピットがある。

全体的に見るとA溝、B溝と他の遺構は同時期に機能していたと考えられる。

溝2 (第20図 図版4)

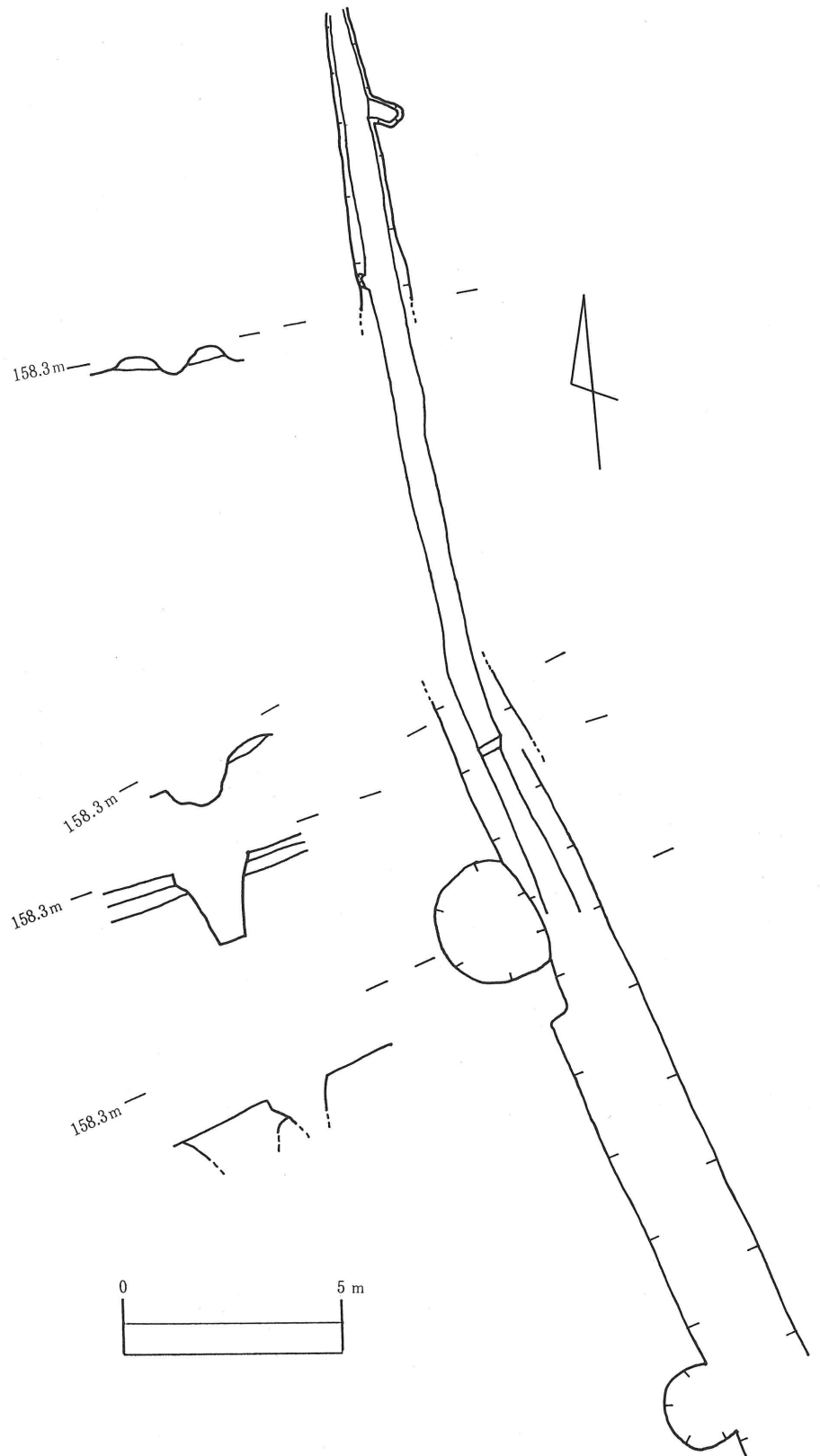
西地区西部に位置する。西から東に25mのび途中で屈曲して南に12mのびる。西側は調査区域外、南は道路があり水が出てきてしまって不明で、溝全体を把握することは出来ない。幅1.2mほど、深さは0.4m~0.5mである。覆土は1層で、七本桜軽石粒、今市軽石粒が少し混入している黒褐色土である。皿形土器、常滑焼の大甕の破片、砥石1個が出土している。



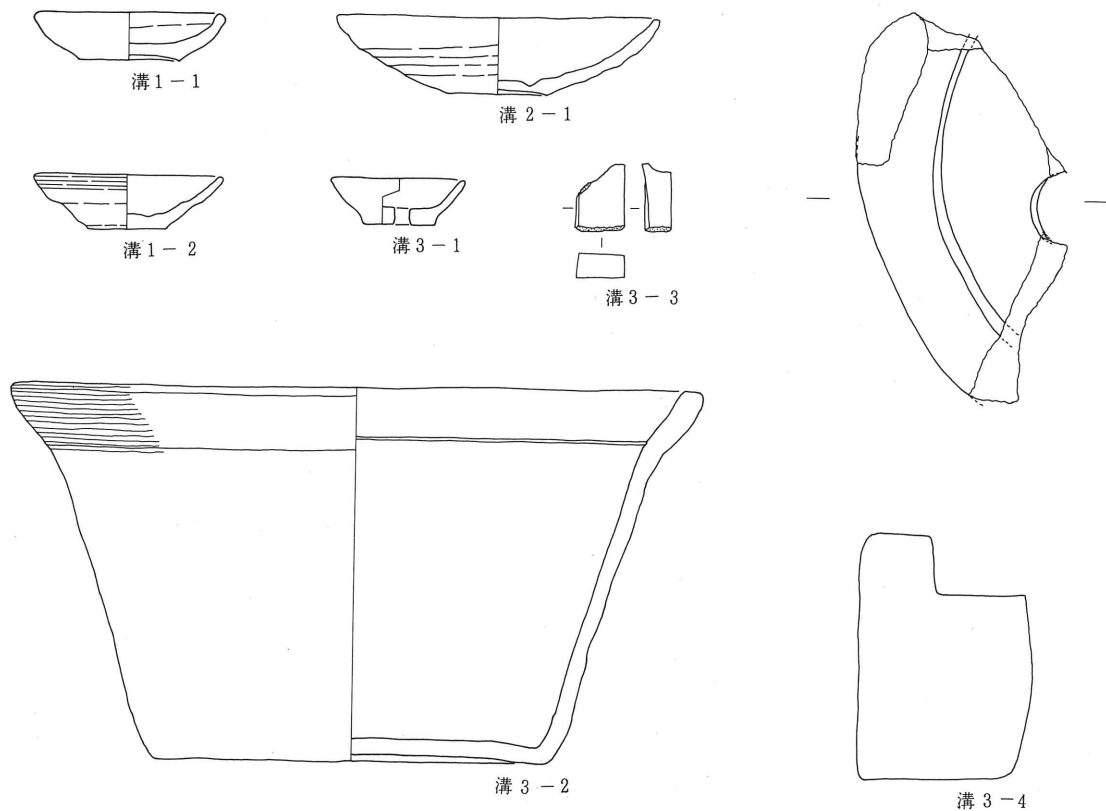
第20図 溝2 実測図

溝3 (第21図 図版12)

西地区東部に位置する。少し東に屈曲して、北から南にのびている。北端は調査区域外であるが、造成工事で斜面を削ったところ、北側丘陵部にのびていることが確認された。南端は道路があり水が出てきてしまって不明である。幅はD2土坑1付近で1.6m、南にのびる途中で西側が広がり2.2mである。底面は途中で1.2mの段差があり、南は平坦で深さは2mである。南側は水が出てくるので調査不能である。北側は底部の痕跡のみ認められた。底部が穿孔してある小型皿形土器、内耳土器、常滑焼の大甕の破片が出土している。



第21図 溝3実測図



第22図 溝出土遺物

第6表 溝出土土器観察表

遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
溝1-1	皿	(7.8) (4.4) 2.1	上げ底の底部から僅かに内湾して開き、口縁部は僅かに肥厚している。	底部糸切り	砂粒混入 淡赤褐色	1/4破片
溝1-2	皿	(8.0) 3.4 2.4	平坦な底部から直線的に開く。底部と口縁部の間に段がある。	底部糸切り後篋整形 外部 口縁部横撫で	砂粒混入 乳白色	口縁部 2/3欠損
溝2-1	皿	13.8 4.4 3.3	上げ底の小さな底部から僅かに内湾して大きく開き口縁部にいたる。	轆轤整形 底部糸切り後篋整形	砂粒混入 淡黄褐色	口縁部 一部欠損
溝3-1	皿	5.7 3.2 2.0	底部は平坦。ほぼ中央に焼成後に穿孔された穴がある	内部は朱の類で染められ赤色を呈する。	砂粒混入 外面淡灰白色 内面赤色	完形
溝3-2	内耳	30.0 17.0 16.0	上げ底の底部から直線的に開き、口縁部は僅かに内湾して開く。口唇部は平坦。内外面とも口縁部下に沈線がある。吊手数不明。	外面 口縁部横撫で	小石混入 茶褐色 外部煤付着	1/2欠損

第2節 その他の遺物

1 土器 (第23,24,25,26図)

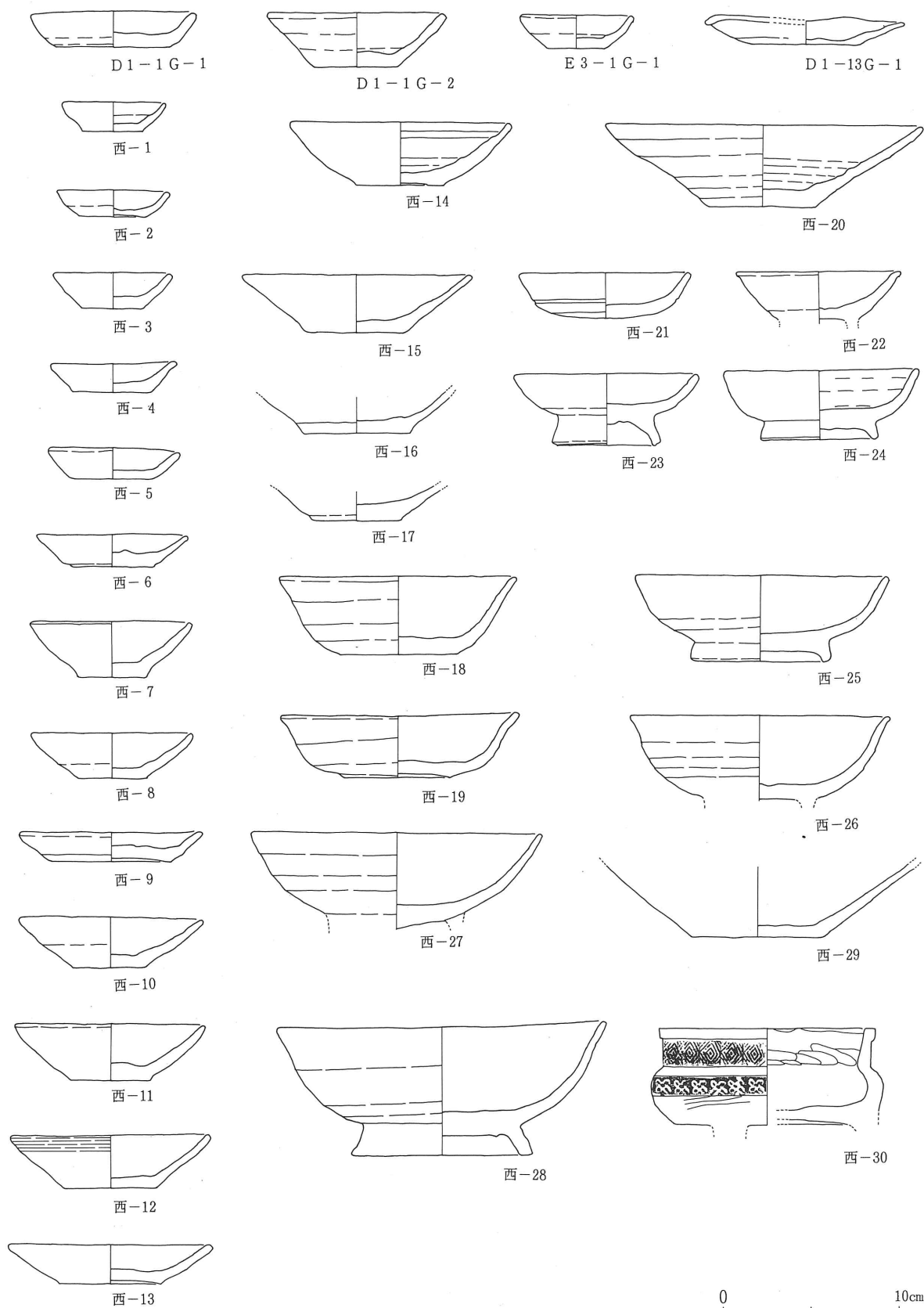
調査した遺構には伴っていないが表土から多数の土器が出土している。西地区、南地区の多数の柱穴と考えられる遺構から見ると住居址に伴うものもあると考えられる。また、東地区では調査終了後の造成工事中に多数の土器が出土した。出土状況等詳しいことは不明である。図示したものは西地区では皿17点、坏16点、香炉1点、甕2点、壺1点、東地区では皿7点、坏9点、壺2点、甕1点、羽釜1点、甑1点、内耳1点である。そのほかには常滑焼の大甕片、瀬戸焼の折縁深皿片、青磁碗片が出土している。常滑の大甕片は口径49.4cmで口縁部が少しつまみ上げられている。色調は内面は赤紫がかかっていて、外面は緑色の釉がかかっている。胎土は砂粒が少なく緻密である。粘土の貼付具合があまい部分があり火ぶくれ箇所がある。焼成はやや悪い。折縁深皿は断面は灰色でオリーブ色の釉が薄くついている。口径は32.8cmで胎土は緻密である。青磁碗片は鎗蓮弁文が一部わかる。色調はくすんだ灰緑色、断面は灰色である。

2 石製品 (第24図)

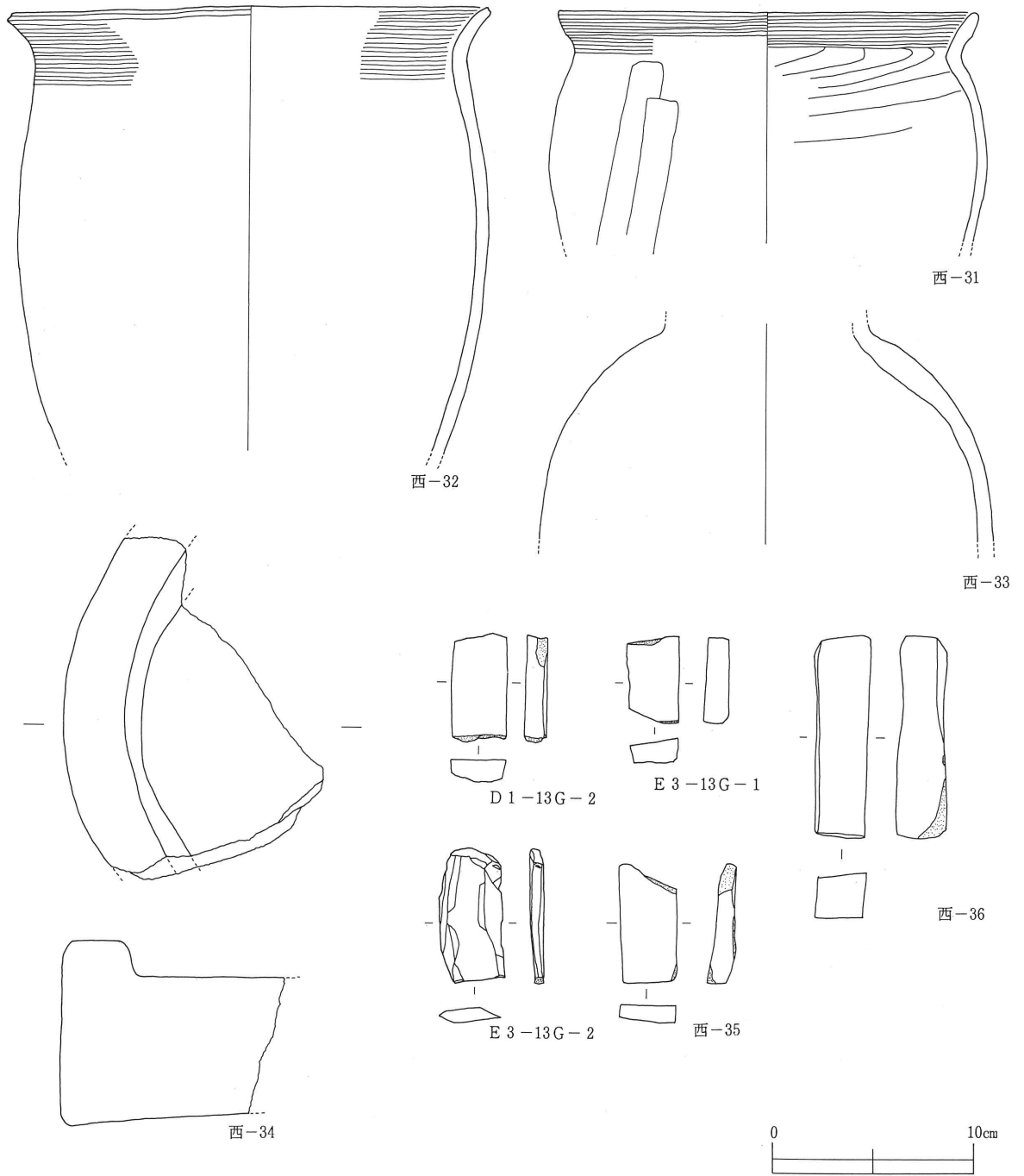
西地区表土中から石製品として石臼片1点と砥石5点が出土している。

3 その他

西地区と南地区の表土から多数の鉄滓が出土している。鍛冶関連の遺構があったことが考えられるが、調査では不明である。



第23图 西地区表土出土遺物(1)



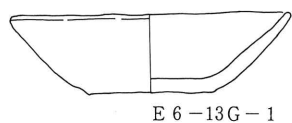
第24图 西地区表土出土遺物(2)

第7表 西地区表土出土土器観察表(1)

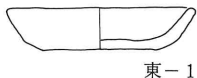
遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
D1-1G-1	皿	8.9 6.3 2.0	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り	砂粒混入 赤褐色 口縁外部油煙	完形
D1-1G-2	皿	9.5 4.5 3.0	底部は平坦。直線的に開いて口縁部にいたる。	底部糸切り	砂粒混入 淡褐色	口縁部 一部欠損
D1-13G-1	皿	(10.7) (5.8) 1.3	平坦な底部から直線的に大きく開いて口縁部にいたる口唇部は外側につまみ出されている。	底部糸切り	微砂粒混入 淡褐色	1/3破片
E3-1G-1	皿	(6.0) 3.4 1.8	底部は平坦。僅かに内湾して開く。内面の底部と口縁部の境に稜がある。		砂粒混入 淡黄褐色	1/2破片
西-1	皿	(5.5) 3.4 1.6	底部は平坦。僅かに内湾して開く。	底部糸切り後篋整形	砂粒混入 淡茶褐色	口縁部 1/2欠損
西-2	皿	(6.0) 3.8 1.5	上げ底の底部から僅かに内湾して開く。	底部糸切り	淡褐色	1/3破片
西-3	皿	(6.4) 3.5 2.0	底部は平坦。直線的に開く		淡茶褐色	口縁部 2/3欠損
西-4	皿	6.8 4.4 1.6	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り後篋整形	淡褐色	口縁部 一部欠損
西-5	皿	7.1 4.5 1.7	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り	淡褐色	完形
西-6	皿	(8.2) 4.6 1.8	底部は平坦。底部と口縁部の境に段がある。直線的に開く。	底部糸切り	砂粒混入 黒褐色	口縁部 1/2欠損
西-7	皿	(8.6) (3.8) 3.1	底部は平坦。僅かに内湾して開く。	底部糸切り	砂粒混入 淡褐色	1/5破片
西-8	皿	(8.8) (3.8) 2.5	底部は平坦。僅かに内湾して開く。	底部糸切り	砂粒混入 淡茶褐色	1/5破片
西-9	皿	9.8 6.7 1.6	上げ底の底部から直線的に開く。底部と口縁部の境に稜がある。	底部糸切り	砂粒混入 赤褐色	口縁部 1/2欠損
西-10	皿	9.9 4.0 2.8	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り	砂粒混入 淡黄白色	完形
西-11	皿	10.4 4.5 3.1	底部は平坦。僅かに内湾して開く。	底部糸切り後篋整形	微砂粒混入 乳白色	1/2破片
西-12	皿	(10.8) 5.1 2.9	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り後篋整形 外部 口縁部横撫で	淡茶褐色	口縁部 3/4欠損
西-13	皿	(11.0) 5.7 2.2	上げ底の底部から直線的に大きく開く。	底部糸切り	砂粒混入 淡赤褐色	1/5破片
西-14	坏	(12.0) (4.8) 3.5	底部は僅かに上げ底。僅かに内湾して開く。	轆轤整形	砂粒混入 淡赤褐色	1/5破片
西-15	坏	(12.4) 5.2 3.2	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り後篋整形	茶褐色	口縁部 2/3欠損
西-16	坏	— 5.9 —	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り後篋整形	淡茶褐色	底部残存
西-17	坏	— 5.0 —	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り	淡茶褐色	底部残存

第8表 西地区表土出土土器観察表(2)

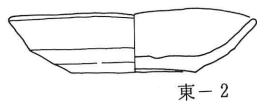
遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
西-18	坏	12.9 6.5 4.3	底部は平坦。僅かに内湾して開き、口縁部で僅かに外反する。	轆轤整形 底部篋整形 外面 磨耗が激しい。 内面 篋磨き	砂粒混入 外面淡褐色 内面黒色	口縁部 1/2欠損
西-19	坏	13.0 5.8 3.4	上げ底の底部から内湾して開き、口縁部は直線的に外傾する。	轆轤整形 底部糸切り	砂粒混入 外面赤褐色 内面淡褐色	完形
西-20	坏	(17.3) 5.9 4.5	底部は平坦。小さな底部から直線的に大きく開く。	轆轤整形 底部糸切り	微砂粒混入 淡黄褐色	1/3破片
西-21	坏	9.2 — 2.5	底部は丸底。直線的に開く。底部と口縁部の境に枕線がある。		砂粒混入 淡赤褐色	1/3破片
西-22	坏	(8.9) — —	高台が付く底部から僅かに内湾して開く。口唇部は外側につまみだされている。	内外面とも丁寧に磨かれている。	小礫数個含む 暗赤褐色	1/3破片
西-23	坏	10.0 5.4 4.0	高い高台が付く底部から僅かに内湾して開く。	外面 口縁部黒色に塗ったあと 内面 丁寧な篋磨き	砂粒混入 外面淡褐色 内面黒色	口縁部 4/5欠損
西-24	坏	10.5 6.1 3.8	高台が付く底部から内湾して立ち上がる。	外面 丁寧な篋磨き 内面 丁寧な篋磨き	黒色で砂粒混入 黒色	高台部 一部欠損
西-25	坏	13.8 7.2 4.8	高台が付く底部から内湾して立ち上がる。	外面 口縁部篋磨き 内面 丁寧な篋磨き	砂粒混入 外面赤褐色 内面黒色	口縁部 1/3欠損
西-26	坏	(14.2) — —	高台が付く底部から内湾して立ち上がり口縁部で外反する。	轆轤整形 底部糸切り 内面 丁寧な篋磨き	内面黒色	高台部欠損、口縁部 一部残存
西-27	坏	15.9 — —	高台が付く底部は中央部が厚くなっている。内湾して大きく開く。	轆轤整形 内面 篋磨き。	砂粒混入 灰褐色	高台部欠損
西-28	坏	17.9 10.0 7.0	高台が付く底部から内湾して立ち上がり口縁部は僅かに外反する。	轆轤整形 内面 丁寧な篋磨き	外面淡茶褐色 内面黒色	口縁部 1/4欠損
西-29	坏	— 7.3 —	底部は平坦。直線的に大きく開く。	底部糸切り後篋整形	淡黒褐色	底部残存
西-30	香炉	12.0 — —	三足香炉と考えられる。内湾して立ち上がる。頸部は直立している。口唇部は外側に作り出されている。口唇部は平坦。頸部に菱形文胴部上半に印花文が施されている。	外面 胴部下半篋削り 内面 口縁部から頸部篋整形	赤褐色	1/4破片
西-31	甕	20.6 — —	胴部は少し膨らんで立ち上がり、口縁部はくの字に外反する。口縁部外側に稜がある。	外面 口縁部横撫で。胴部縦方向の篋削り 内面 口縁部横撫で。胴上部横方向の篋整形	砂粒混入 淡褐色	2/3破片
西-32	甕	23.7 — —	僅かに膨らんで立ち上がる。胴部から口縁部が外反する。口唇部に沈線がある。口縁部に最大径を持つ。	外面 口縁部横撫で 胴部縦方向の篋削り 内面 口縁部横撫で	淡茶褐色	胴下1/3 欠損
西-33	壺	— — —	大きく膨らんだ胴部から頸部が直立するようである。	外面 篋磨き	淡茶褐色 内面煤付着	胴部上半 1/3破片



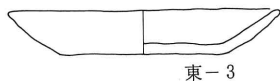
E6-13G-1



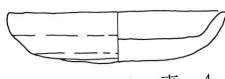
東-1



東-2



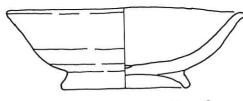
東-3



東-4



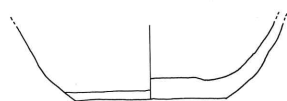
東-5



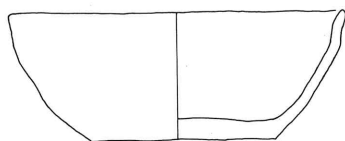
東-6



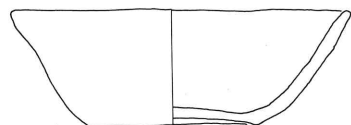
東-7



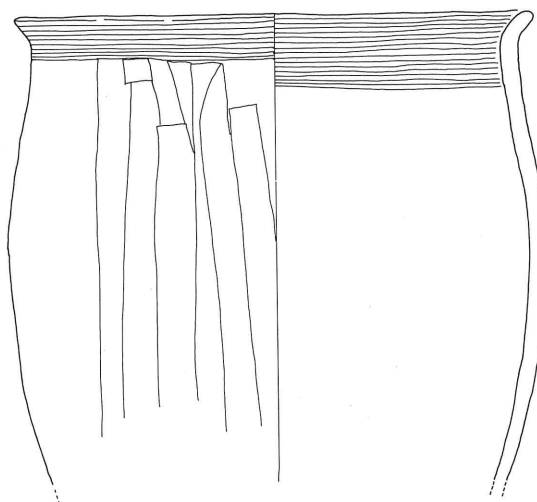
東-8



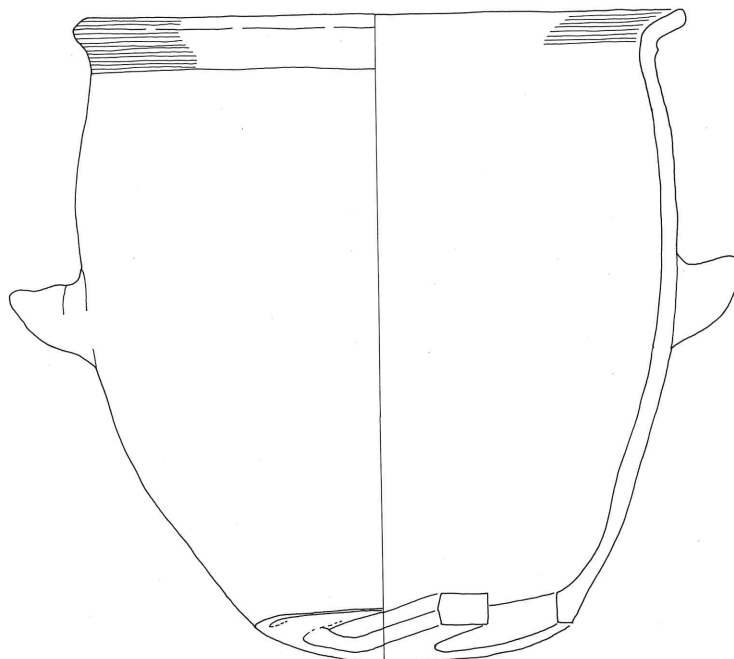
東-9



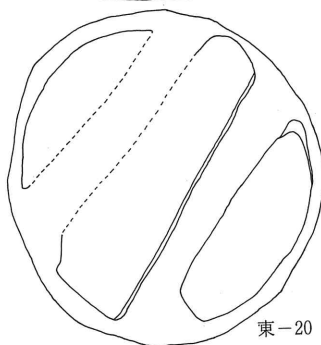
東-10



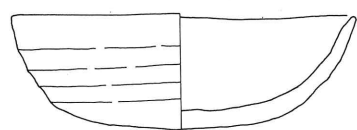
東-17



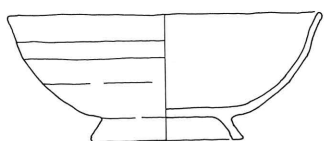
東-20



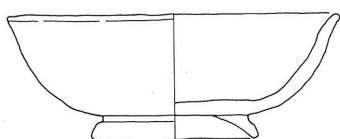
第25図 東地区表土出土遺物(1)



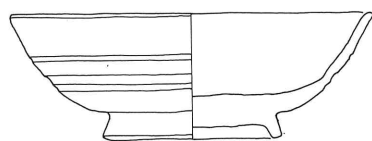
東-11



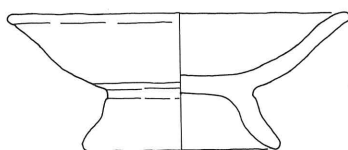
東-12



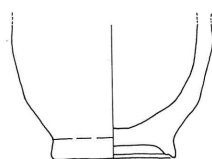
東-13



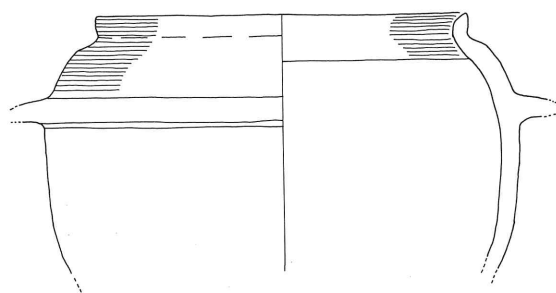
東-14



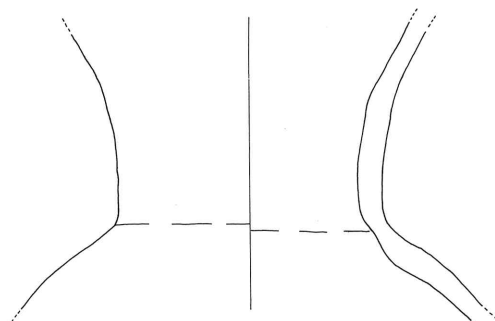
東-15



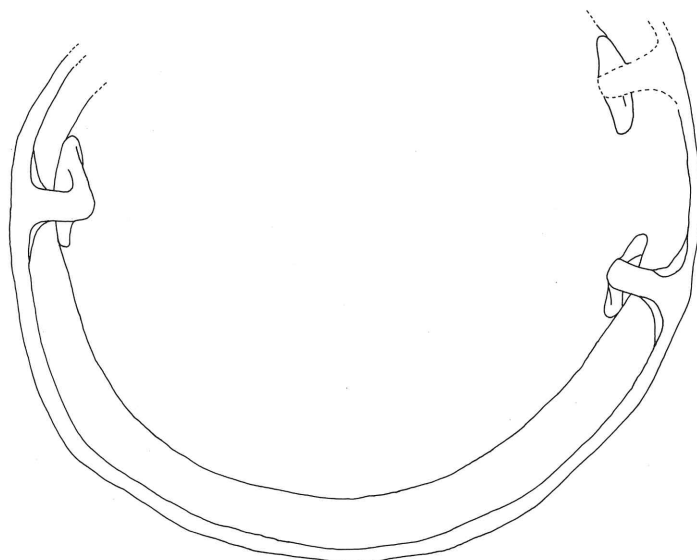
東-16



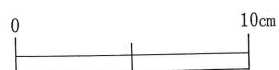
東-18



東-19



東-21



第26図 東地区表土出土遺物(2)

第9表 東地区表土出土土器観察表(1)

遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
E6-13-1	皿	(11.8) (5.4) 3.4	底部は平坦。直線的に開く	底部糸切り	淡茶褐色	1/4破片
東-1	皿	(7.9) (5.0) 1.8	底部は平坦。僅かに内湾して開く。	底部糸切り後篋整形	淡赤褐色	1/2破片
東-2	皿	10.5 5.4 2.5	上げ底の底部から直線的に開き、内側に屈曲して口縁部にいたる。	轆轤整形 底部糸切り	砂粒混入 淡褐色	完形
東-3	皿	(11.6) (7.1) 1.9	底部は平坦。直線的に大きく開く。	底部糸切り	淡茶褐色	1/3破片
東-4	皿	9.3 — 2.2	丸底気味の底部から僅かに内湾して開く。		淡赤褐色	完形
東-5	皿	9.1 5.0 4.0	高い高台が付いた底部から直線的に開く。	内面 丁寧な篋磨き	砂粒混入 淡茶褐色	口縁部 1/4欠損
東-6	皿	10.1 5.4 3.5	高台が付いた底部から僅かに内湾して開き口縁部で僅かに外反する。	轆轤整形 底部糸切り 内面 丁寧な篋磨き	淡褐色 一部黒色	口縁部 1/3欠損
東-7	坏	(13.4) (5.3) 4.0	底部は平坦。僅かに外反して開く。	轆轤整形	灰色 須恵器	1/3破片
東-8	坏	— 6.6 —	底部は平坦。僅かに内湾して立ち上がる。	底部篋整形	微砂粒混入 外面淡茶褐色 内面黒色	底部破片
東-9	坏	(14.4) 7.9 5.5	底部は平坦。僅かに内湾して開き、口縁部は外反して立ち上がる。	底部糸切り 内面 丁寧な篋磨き	砂粒混入 淡茶褐色	口縁部 2/3欠損
東-10	坏	14.5 7.3 5.0	上げ底の底部からほぼ直線的に開く。	轆轤整形 底部糸切り 内面 丁寧な篋磨き	小石混入 外面淡赤褐色 内面黒色	1/3欠損
東-11	坏	14.7 — 5.0	丸底の底部から内湾して開く。	轆轤整形 外面 底面篋整形 内面 丁寧な篋磨き	外面淡褐色 内面黒色	口縁部 一部欠損
東-12	坏	(13.4) 6.5 5.5	高台が付く底部から内湾して開き、口縁部が僅かに外反する。	轆轤整形 内面 丁寧な篋磨き	淡茶褐色	口縁部 2/3欠損
東-13	坏	(14.2) 7.2 5.4	高台が付く底部から内湾して立ち上がる。高台の付け根に沈線がある。	内面 丁寧な篋磨き	褐色	上部 1/5残存
東-14	坏	(15.5) 7.8 5.4	高台が付く底部から僅かに内湾して開く。	轆轤整形 外面 口縁部篋磨き 内面 丁寧な篋磨き	砂粒混入 外面褐色 内面黒褐色	上部 1/8残存
東-15	坏	(14.4) 8.3 5.9	緩やかに開く高台が付いた底部から僅かに外反して大きく開く。高台の付け根に沈線がある。	轆轤整形	砂粒混入 赤褐色	口縁部 2/3欠損
東-16	壺?	— 5.2 —	高台が付く底部から僅かに内湾して立ち上がる。高台端部に沈線がある。	外面に漆のようなものを塗った痕跡がある。	胎土黒色 黒色	胴部下半 残存
東-17	甕	22.0 — —	胴部やや上に最大径を持つやや膨らんだ胴部から外反して口縁部にいたる。	外面 口縁部横撫で。胴部縦方向の篋削り 内面 口縁部横撫で	淡褐色	口縁部、 胴部 1/3破片
東-18	羽釜	16.0 — —	膨らんだ胴部の中央より上に羽の部分が付く。口縁部は短く直立している。	外面 口縁部、胴上部横撫で。胴下部縦方向の篋削り 内面 口縁部横撫で	小石混入 赤褐色	口縁部 1/2破片
東-19	壺	— — —	頸部がやや外反して開く。	外面 篋磨き 内面 丁寧な篋磨き	外面赤褐色 内面黒色	頸部 1/2破片

第10表 東地区表土出土土器観察表(2)

遺構・グリッド番号	器種	法量	器形の特徴	整形の特徴	胎土・色調	遺存状況
東-20	甌	27.0 13.8 25.5	底部は長方形の部分を2本残し、大きく穴が開けている。胴部は緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部は短く外反する。胴部中程やや上に瘤状の持ち手部分が二カ所についている。	外面 口縁部横撫で。横方向と縦方向の篋削り 内面 口縁部横撫で。横方向の篋整形	砂粒混入 淡褐色	口縁部、 胴部 一部欠損
東-21	内耳	29.7 — —	丸底の底部から緩やかに外反して口縁部にいたる。口唇部は平坦。内外面に口縁部と体部の区切りがある。吊手は2:1である。	内面 口縁部横撫で	小石混入 褐色 外面煤付着	胴部1/3欠損、底部欠損

第4章 ま と め

立伏E遺跡は栃木県河内郡河内町立伏に所在し、従来は土師器の散布地として遺跡台帳に登録されていた。発掘の結果、古代から中世に亘る遺跡であることが明らかになった。しかし、発掘調査担当者の力不足のため下記のような状況となり詳細については説明することが出来なかった。

- (1) かまど、炉と考えられる遺構が検出されたが、それにもなう住居址等の遺構を検出することが出来なかった。
- (2) 土器は多数出土したが、表土中が多く、遺構との関連が明確に出来なかった。
- (3) 水田からの比高があまりないのに加え、遺跡中央を通っている道路に丘陵から流れ込む地下水がせき止められるため、遺構にすぐに水がたまってしまい、十分調査することが出来なかった。
- (4) 冬季の調査のため、水が出てくることで霜柱が立ちすぐに遺構が崩壊してしまった。
- (5) 学校建設による発掘調査のため、十分な時間をとることが出来なかった。土器の多くは重機による表土除去の際に出土している。
- (6) 調査計画を明確に立てられなかったため、遺構の発掘、図面作成、写真撮影等が不十分になってしまった。

調査の結果明らかになったのは次の2点である。

- (1)かまど5基、炉9基、井戸9基の生活関連の遺構とともに柱穴と考えられる小ピットが多数検出されたことより集落址と考えられる。
- (2)土器は遺構に伴うものが少なかったのでセット関係を捉えることができなかったが、時期的には10世紀から中世にかけてと考えられる。

以上から本遺跡には古代から中世にわたって人々が居住し、立地から考えると農業に従事していただろう。また、遺物から見ると、鍛冶に従事していた者、あるいは従事していた時もあったろう。今後、周辺の遺跡の調査、あるいは他の遺跡等との関連が研究されていく中で本遺跡の性格も明らかになり、河内町西部の古代から中世にかけての歴史が明らかになっていくことを期待している。

様々な理由はあるが、一つの遺跡が現代の人間の生活のために破壊される状況に直面しながら十分な調査を行うことが出来なかったことは残念である。発掘担当者としての責任を思うと慚愧に堪えない。しかし、今発掘において様々な方の参加を得ることができたことは大変喜ばしいことである。また、御指導、ご助言をいただいた方々に感謝したい。

今後、自分たちの住んでいる地域の歴史に興味を持つ人が増えるとともに、十分な調査体制のもとで地域の歴史を解明する活動が行われることを期待しています。

写 真 图 版



遺跡遠景(南より)



東地区発掘前状況(東より)



東地区予備調査状況



西地区予備調査状況



南地区(北より)



南地区(北東より)



西 地 区 (南より)



西 地 区 (南東より)



E 3 かまど 1



E 3 かまど 1



E 3 かまど 2



E 4 かまど 1、F 5 かまど 1



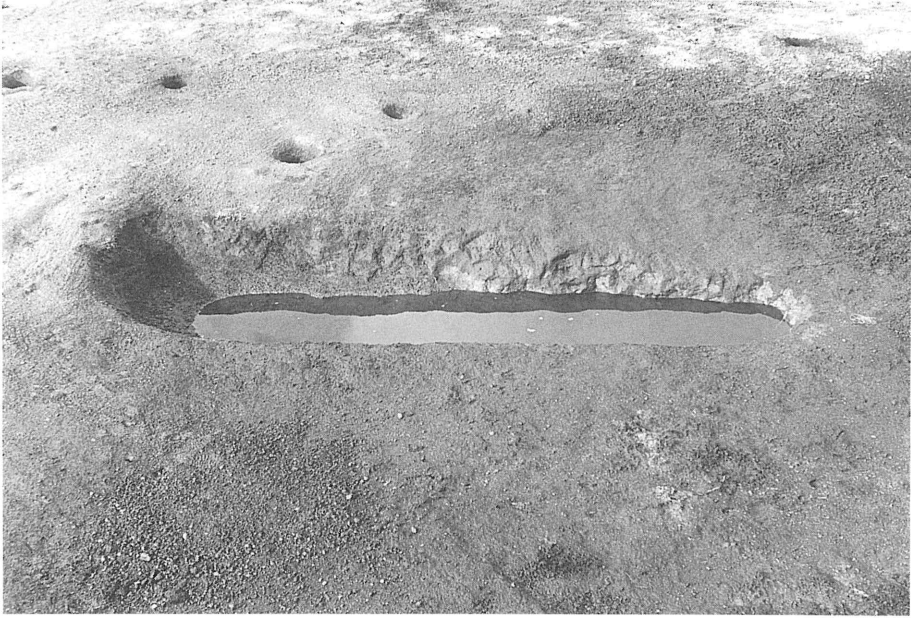
F 6 かまど 1、F 6 炉 1



D 2 炉 1



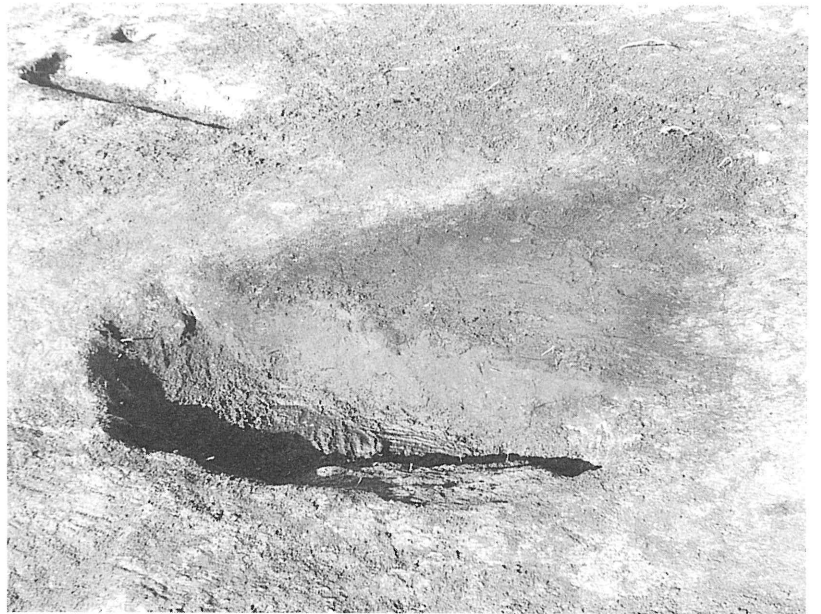
D 2 炉 3



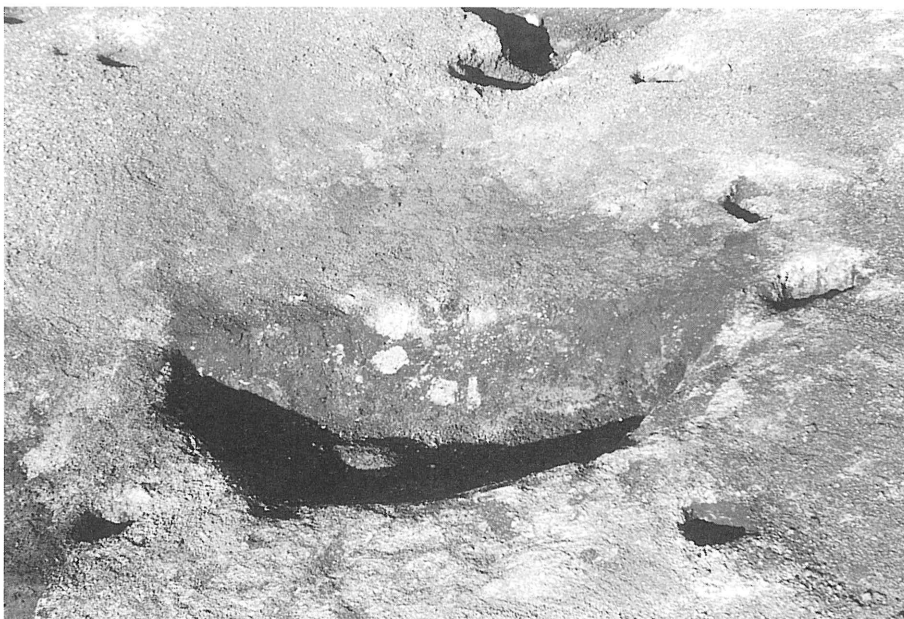
A 2 土坑 2



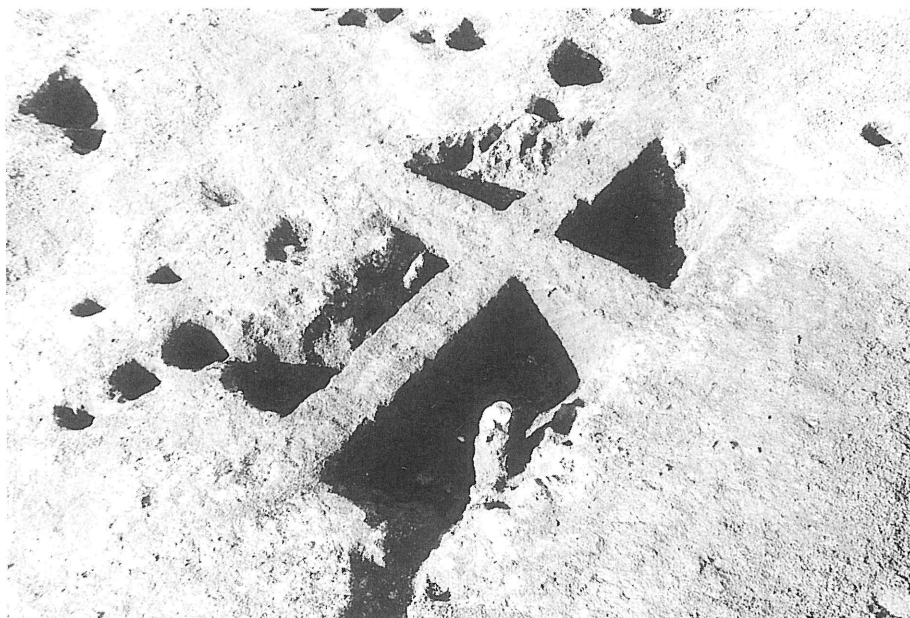
A 2 土坑 3



A 2 土坑 4



B 2 土坑 7



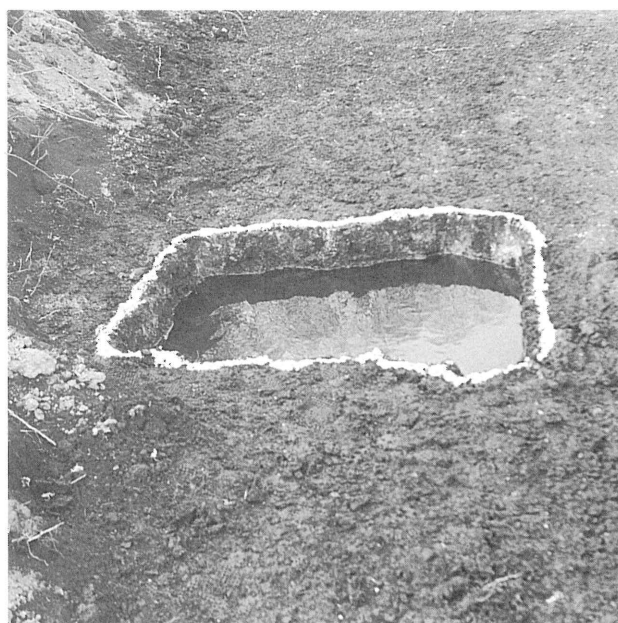
B 2 土坑 5



B 2 土坑 5



B 2 土坑 8



C 1 土坑 1



D 1 土坑 1



D 1 土坑 2



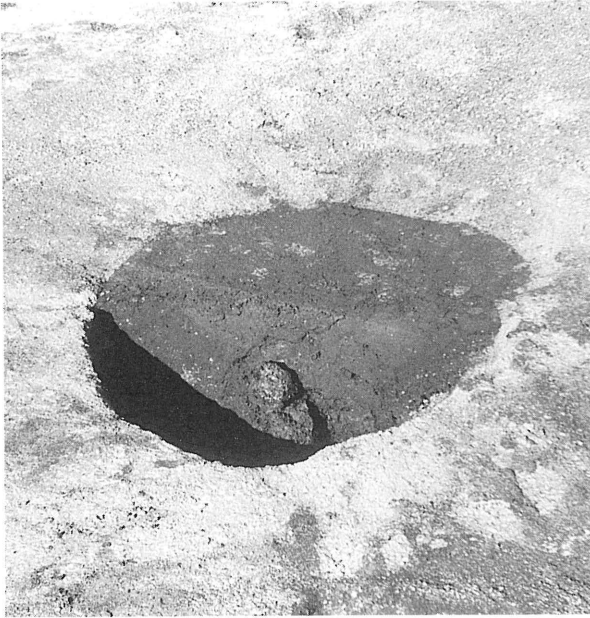
D 1 土坑 3



E 2 土坑 3



E 2 土坑 2、3、4、E 3 土坑 1



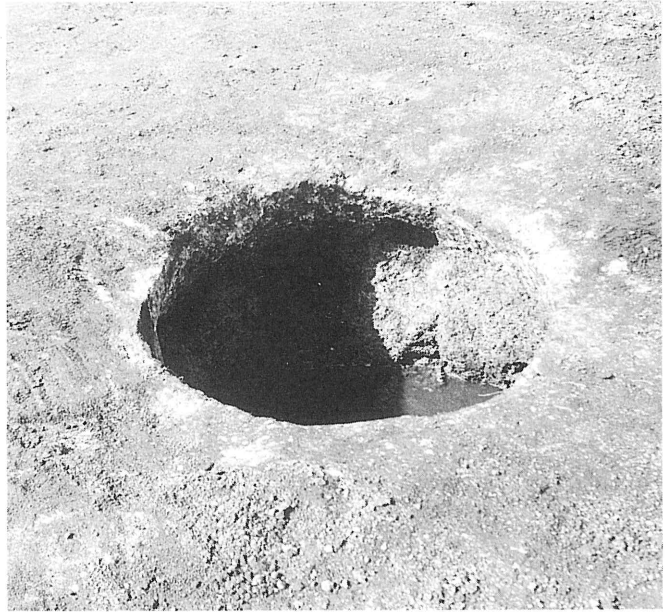
A 2 井戸 1



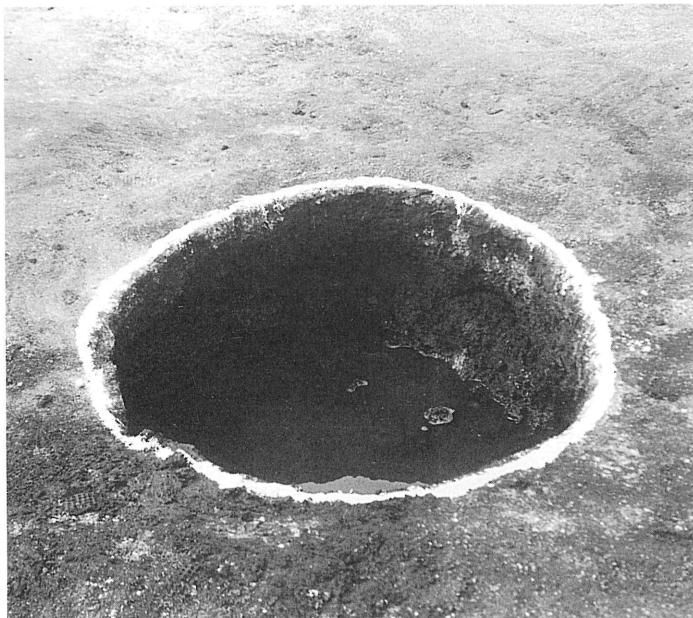
B 2 井戸 2



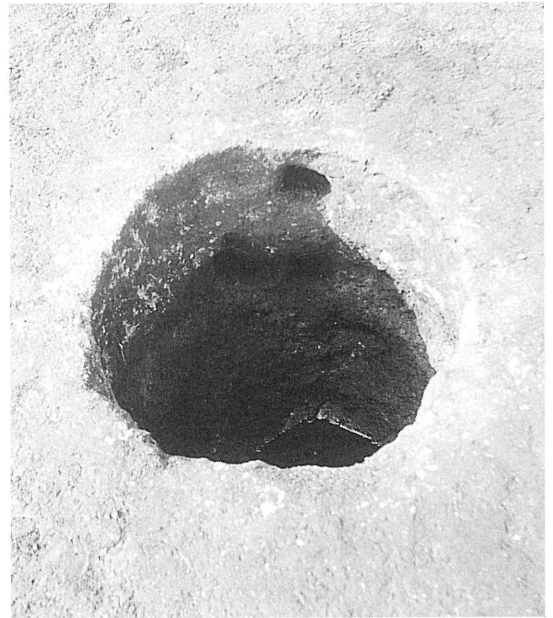
B 2 井戸 3



E 3 井戸 1



D 1 井戸 1



E 2 井戸 1



溝1 (北より)



溝1 (南より)



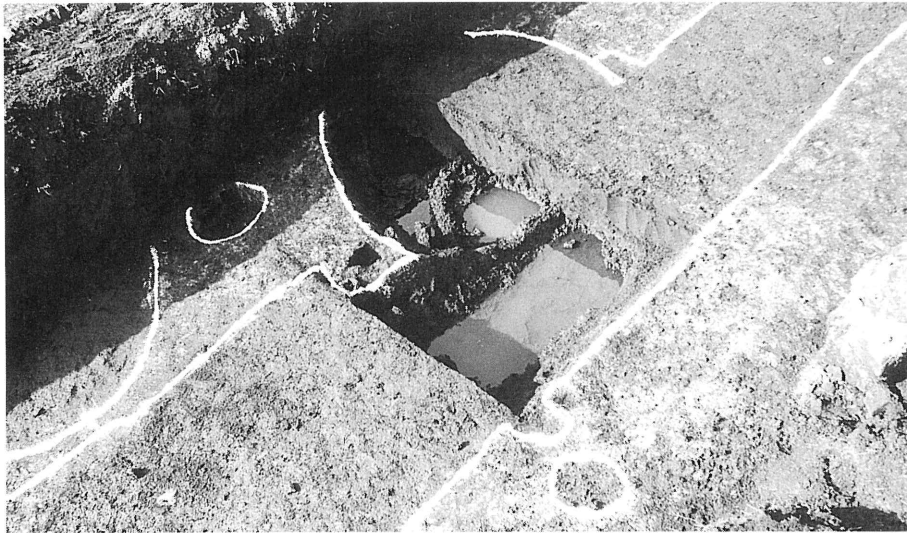
溝1 南端部 (東より)



溝3 (南より)



溝3 北端部



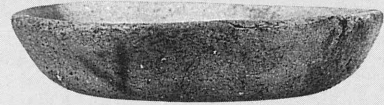
溝3
D2土坑1 (南東より)



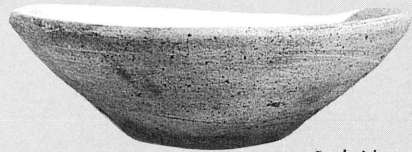
溝3 (北より)



E 3 かまど 1-1



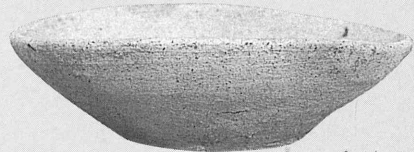
E 3 炉 2-2



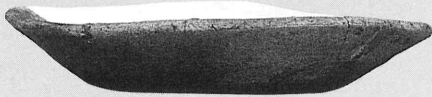
B 2 土坑 5-2



E 3 かまど 2-2



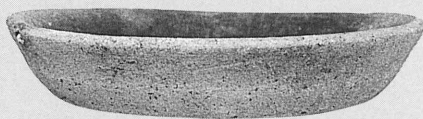
B 2 土坑 5-3



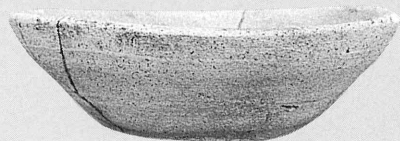
E 4 かまど 1-2



B 2 土坑 5-4



E 5 かまど 1-1



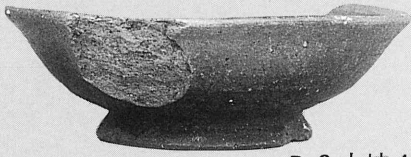
B 2 土坑 5-5



E 3 炉 2-1



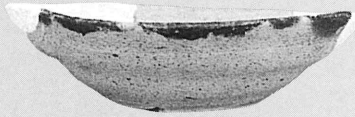
D 2 土坑 1-1



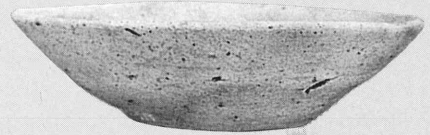
D 2 土坑 1-2



西-5



溝 1-2



西-10



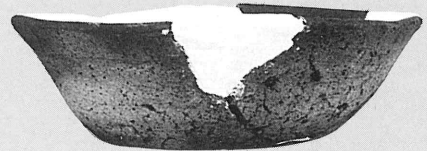
溝 3-1



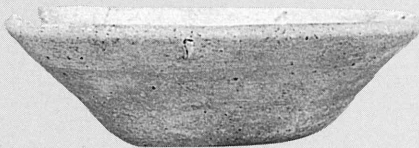
西-11



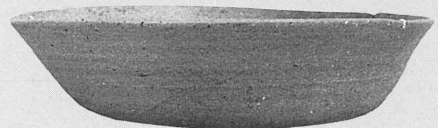
D 1-1 G-1



西-18



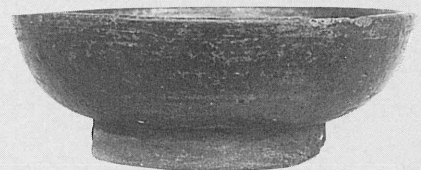
D 1-1 G-2



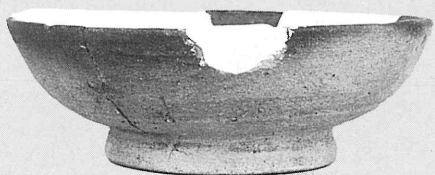
西-19



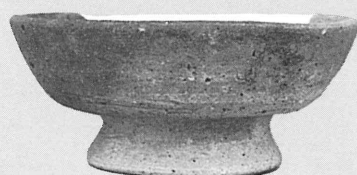
西-4



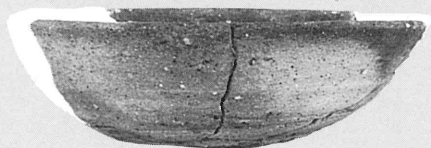
西-24



西-25



東-5



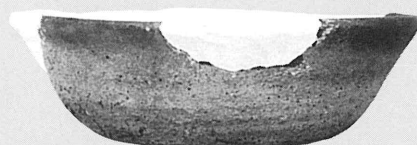
西-27



東-9



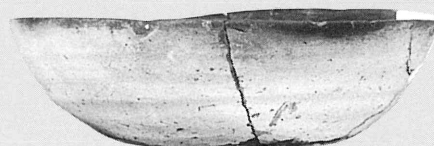
西-28



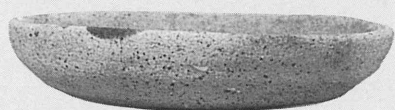
東-10



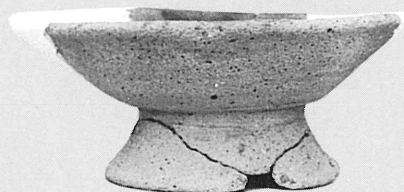
東-2



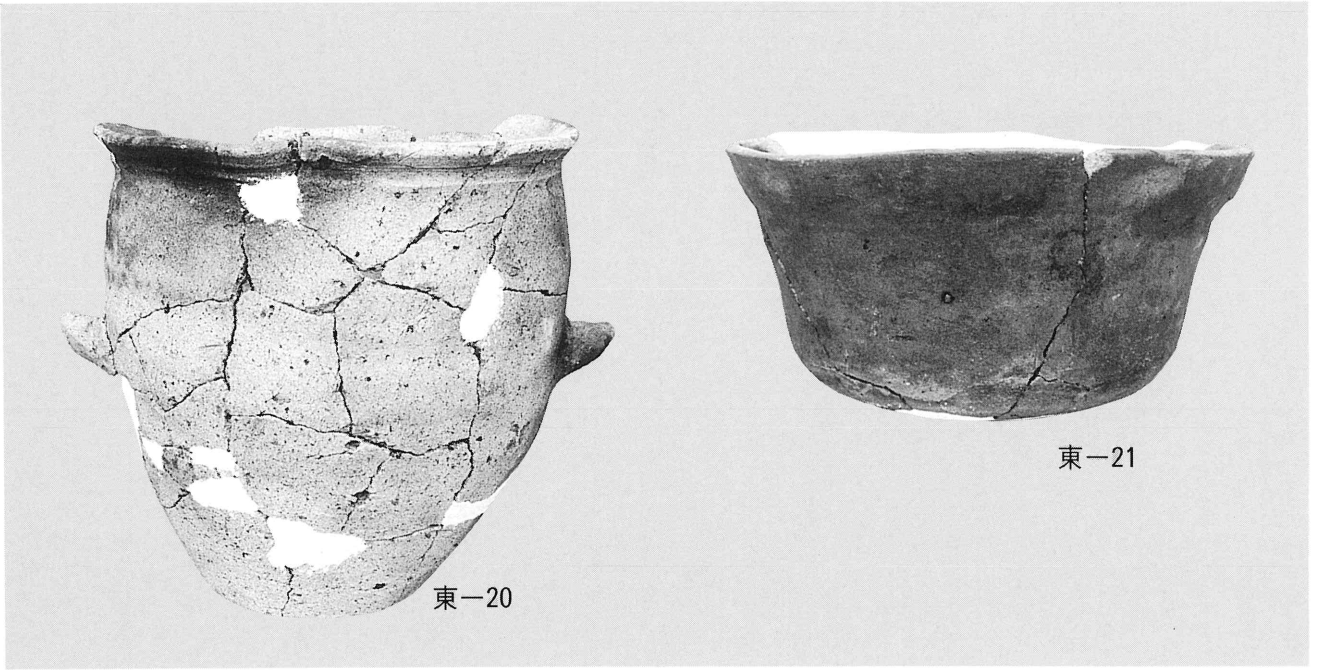
東-11



東-4



東-15



東-20

東-21

河内町埋蔵文化財調査報告書第2集

立 伏 E 遺 跡

発行日 平成10年3月31日

発行所 河内町教育委員会
〒329-1195

栃木県河内郡河内町白沢500番地

電話 028-673-0800

印刷 (有) 丸 谷 印 刷 所

子都宮市教育委員会